KNOW

NEWS LETTER

NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER

2013.8
第89号

公益財団法人
麻薬・覚せい剤乱用防止センター
Drug Abuse Prevention Center

RING!RING! プロジェクト
この冊子は、競輪の補助金により作成しました。
http://ringring-keirin.jp
KEIRIN

NEWS LETTER

2013.8・第89号

CONTENTS

随想

● 「薬物乱用のない街、大阪」に向けて

大阪府薬物乱用防止指導員協議会　会長　阪田晴彦 …… 1

かいせつ

● 薬物依存症の治療　～ワークブックを用いた治療プログラム『スマープ』について～

（独）国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所　薬物依存研究部／自殺予防総合対策センター　松本俊彦 …… 2

● 全国にコダマする「ダメ。ゼッタイ。」の合言葉 …… 8

● 街頭キャンペーン・内閣府特命担当大臣・国連事務総長メッセージ …… 34

● 平成24年中の薬物情勢について …… 35

● 平成24年度事業のあらまし …… 42

● センターだより …… 43

● ご寄付団体及び賛助会員 …… 44

「薬物乱用のない街、大阪」に向けて

大阪府薬物乱用防止指導員協議会
会長　阪田晴彦

＜薬物乱用の現状＞

薬物乱用問題は、全世界的な広がりを見せ、人間の生命はもとより、社会や国の安全や安定を脅かすなど、人類が抱える最も深刻な社会問題の一つとなっています。

我が国においても、乱用者層の低年齢化が懸念される等の状況を受け、過去に累次の薬物乱用防止五か年戦略を、政府が策定され、現在は、内閣府特命担当大臣を議長とする「薬物乱用対策推進会議」の下、第三次薬物乱用防止五か年戦略（平成20年8月）、薬物乱用防止戦略加速プラン（平成22年7月）を策定し、総合的な薬物乱用対策に取り組みが行なわれています。さらに、最近、合法ハーブ等と称して販売される幻覚作用等を有する薬物を使用した者が、意識障害、嘔吐、けいれん、呼吸困難等の健康被害を起こす事例が多発していることから、合法ハーブ等と称して販売される薬物に関する当面の乱用防止対策（平成24年8月）を策定し、国、都道府県、関係団体が緊密に連携し、更なる乱用拡大を防止するための対策を強力に推進されています。

一方、私ども大阪府下の薬物の現状ですが、平成24年度大阪府警本部の薬物事犯の検挙状況の概要によりますと、

○前年対比で覚醒剤の検挙人員が増加し、薬物事犯全体では増加となり全薬物事犯検挙人員に占める覚醒剤の割合は約92％となっている。

○覚醒剤事犯では、暴力団関係者の検挙人員の占める割合が減少したものの依然として、総検挙人員の約65％を占めている。

○大麻事犯では、全体の検挙人員は減少しているものの、依然として未成年の占める割合が高く、検挙人員の約52％が未成年を含む20歳代までの若者層である。

○違法ドラッグでは、使用後に自動車を運転し通行人を怪我させたり、ひき逃げなどの交通事故が3件発生している。使用後に健康被害の報告があった件数は、平成24年が46人と前年と比べて2倍近く増加しており、特に20代の若者層が多い状況である。

このように大阪府下における薬物の状況は、非常に厳しい状況であり、若者層に乱用が広まるなど、深刻な問題となっています。

＜大阪府での取り組み＞

大阪府の薬物乱用防止の対策としては、大阪薬物乱用「ダメゼッタイ」第三次戦略を策定し、次の4つの基本目標（①青少年による薬物乱用の根絶および薬物乱用を拒絶する規範意識の向上②薬物依存・中毒者の治療・社会復帰の支援及びその家族への支援の充実強化による再乱用防止の推進③薬物密売組織の壊滅及び末端乱用者に対する取締りの徹底④薬物密輸阻止に向けた水際対策の徹底、国際的な連携・協力の推進）を掲げています。これらの目標に向け様々な対策を行なっていますが、違法ドラッグの使用による健康被害や自動車による第三への危害といった被害が多発したことを受け、昨年12月には、本戦略の改正を行ない、違法ドラッグに関して「医療機関等からの健康被害に関する情報収集や関係機関への情報提供」及び「販売店への取締強化」の2点を追加し、対策強化を図っています。

また、昨年12月には、大阪府警察との連携・協力した全国初となる知事指定薬物の使用及び使用目的所持に罰則規定を設けた「大阪府薬物の濫用の防止に関する条例」が施行され違法ドラッグへの取締強化を行なっています。

その他、薬物乱用防止の啓発活動については、毎年6月20日から7月19日の「ダメ。ゼッタイ。」普及運動においては、大阪府内各地において、街頭キャンペーンや講習会を実施し、リーフレットやキズテープを配布するとともに、関係機関や団体等にポスターを配布し、掲出をお願いしています。

今年の6・26「世界麻薬撲滅デー」の街頭キャンペーンでは、若者が多く集まる南海難波駅前において大学生による薬物乱用撲滅宣言を行うとともに、ボランティア（国際ソロプチミスト大阪－なにわ・大阪薬科大学学生・近畿大学学生）の協力のもと、啓発資材を配布し、薬物乱用防止を呼びかけました。（参加者　約1，500人、関係者　22人）

この他にも、店頭キャンペーンとして、府内のハンバーガー、回転寿司、お好み焼きなどの飲食店等の協力を得て店頭ポスター掲示や全国的にも有名な岸和田のだんじり祭りにおいて、岸和田市の協力を得て啓発ポスターの掲示をしています。

指導員協議会は、府内5ブロックに分かれており、それぞれ地域ごとの街頭キャンペーンの実施やブロック協議会、研修会等の薬物乱用防止に向けた活動を実施しています。

違法ドラッグ啓発資材については、財団法人大阪公衆衛生協会の基金を活用し、啓発用メモ帳を作成し薬物乱用防止教室等で配布しています。

＜今後への取り組み＞

違法ドラッグを含むすべての薬物による乱用を防止するため、青少年、学生や保護者を中心にすべての府民に対して、啓発活動を推進していくことが必要です。

このためには小中高での薬物乱用防止教室や地域での講習会、街頭キャンペーンなどの実施を更に推進していかなければなりません。

今年は、麻薬・覚醒剤乱用防止運動地区大会が3年ぶりに大阪で開催しますので、各関係機関や行政等とも協力し、大阪での薬物乱用防止の気運をより一層高めたいと思っています。

＜最後に＞

私自身、薬物乱用防止を行なう麻薬中毒者相談員、薬物乱用防止指導員ですが、犯罪や非行からの更生を支援する保護司でもあります。これまで保護司の業務としても薬物犯罪への支援が多く、特に覚醒剤事犯者への支援を行なっています。また、薬物乱用防止活動としては、長年、地域での小学校・中学校での講演、出身高校での講演、PTA・民生委員等を集めての啓発活動、自動車運送事業者の運行管理者への講習などの活動を続けており、今後も薬物乱用の根絶に向け、出来る限り継続していきたいと思っています。

最後になりましたが、「薬物乱用のない街、大阪」に向け、麻薬中毒者相談員会、指導員協議会並びに関係団体との連携を更に図りながら薬物乱用防止活動に取り組んでいく所存です。

治療プログラム『スマープ』について～

（独）国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
薬物依存研究部／自殺予防総合対策センター
松本俊彦

Ⅰ．はじめに

わが国には薬物依存症からの回復のための支援資源が深刻に不足しています。薬物依存症の専門病院はごくわずかであり、薬物依存症の専門医もきわめて少ないのが現状です。また、多くの精神科医療機関は薬物依存症患者に対して忌避的で、治療を引き受けることを躊躇する傾向があります。

確かに、自助グループや民間リハビリ施設（ダルクなど）といった当事者による支援資源はあります。しかし、これだけでは多様な薬物依存症者のすべてをカバーするには、あまりにも心許ないというべきです。実際、ごく最近まで、これらの当事者による支援資源になじめない薬物依存症者には、他に選択できる治療の選択肢がまったくないという状況が続いていました。

こうした状況を打開すべく、私たち、２００６年より神奈川県立精神医療センターせりがや病院（以下、せりがや病院）をフィールドとして治療プログラムの開発を試みてきました。それが今回取り上げる、『せりがや覚せい剤再乱用防止プログラム（Serigaya Methamphetamine Relapse Prevention Program; SMARPPスマープ）』[3]なのです。

今回は、このスマープの理念と内容、ならびにその効果について紹介します。

Ⅱ．『スマープ』とは

1．マトリックスモデル

スマープの開発にあたって私たちが参考にしたのは、米国西海岸を中心に広く実施されている依存症治療プログラムマトリックスモデル[4]でした。マトリックスモデルとは、ロサンゼルスにあるマトリックス研究所が開発した、覚せい剤などの中枢刺激薬依存を中心的な標的とする統合的外来治療プログラムであり、西海岸では多くの薬物裁判所が、これを刑務所に入る代わりの地域内処遇にあたっての治療プログラムに指定しています。その骨子は、米国国立薬物乱用研究所の治療指針[5]に準拠しており、具体的には以下のような内容となっています。

(1) 最低16週におよぶ週3回外来通院
(2) ワークブックとマニュアルにもとづくグループ再乱用防止スキルトレーニング
(3) あくまでもその目的を治療的活用に限定した、週1ランダムに実施される尿検査によるモニタリング

私たちがマトリックスモデルを参考にしたのには、二つの理由がありました。一つは、それが、認知行動療法的な内容を持つワークブックを用い、マニュアルに準拠した治療モデルである、という点です。これならば、薬物依存症の臨床経験をもつ者がきわめて少ないわが国の現状でも導入できる可能性が高いと考えたのです。もう一つは、マトリックスモデルが、覚せい剤のような中枢刺激薬の依存症を念頭に置いた治療法である、という点です。わが国の薬物依存臨床において最も重要な課題となっていて、しかも、その依存者数が最も多いのは覚せい剤だからです。

2．スマープの構造

私たちが開発したスマープは、プログラム実施期間は原則として週1回全16回（28回バージョンもある）と介入頻度はマトリックスモデルよりも少ないものの（介入日数の不足は従来の自助グループのミーティングや個別面接、あるいはダルク通所を組み合わせて補うこともあります）、他のコンポーネントは原則としてマトリックスモデルと同じ構造を採用しています。具体的には、週1回のグループセッションと尿検査の実施を基本とし、動機付け面接の原則に沿った支持的な介入を大切にしています。

3．スマープ・ワークブック

私たちは、プログラムの中心をなす認知行動療法のワークブック開発にあたって、マトリックスモデルで用いられているものを参考にしました。私たちは、２００５年頃より試験的に、公表されているマトリックスモデルのワークブックを日本語訳して使用していましたが、この翻訳版のワークブックは、米国との文化的事情の違いのせいか、使っていて違和感を覚える箇所が目立ちました。また、アルコール・薬物の使用がもたらす医学的

弊害や、依存症に関する心理教育的なセッションが少ない点が不満でした。

そこで、私たちはそのワークブックを大胆に改訂することにしたわけです。もちろん、ワークブックの中核部分は、マトリックスモデルと同様、薬物渇望のメカニズムや回復のプロセス、様々なトリガーの同定と対処スキルの修得、再発を正当化する思考パターン、アルコールや性行動との関連といった、認知行動療法的なトピックは引き継ぎましたが、これらに加え、痩せ願望や食行動異常と薬物渇望との関係、C型肝炎やHIVといった感染症に関する話題、アルコール・薬物による脳や身体への弊害に関する話題も追加しました。

文章全体の記述量も多くしました。通常のワークブックであれば、むしろ文章を削る方向に尽力するところですが、私たちとしては、依存症臨床経験の乏しい援助者が、患者と一緒にワークブックの読み合わせをするだけでも、それなりにグループセッションのファシリテーターができるようにしたいと考えました。それには、ワークブックの記述自体にファシリテーターの台本としての機能を持たせる必要があったのです。その結果、ワークブックは、患者に伝えたい情報が盛り込まれたリーディング・テキストのようなかたちとなり、自習教材として活用することもできるものとなったわけです。

現在、スマープ・ワークブックは、16セッション版（SMARPP-16）と28セッション版（SMARPP-28）の2種類が用意されており（**図1**参照）、実施施設の性質や患者の特徴によってプログラム実施期間の長短が選択できるようになっています。28セッションのワークブックは市販もされています[2]。

4. スマープ実施にあたっての工夫

スマープの実施にあたって私たちが特に心がけているのは次の3点です。

第一に、報酬を与えることです。私たちは、望ましくない行動に罰を与えるのではなく、望ましい行動に報酬を与えることに多くの努力を払うようにしています。報酬の最も基本的な構成要素は、つねに患者の来院を歓迎することにあります。プログラムに参加した患者にはコーヒーなどの飲み物と菓子が用意され、お茶会さながらの雰囲気のなかでセッションを進めています。また、1週間をふりかえり、薬物を使わなかった日については、各人のカレンダー・シートにシールを貼ってもらい、プログラムが1クール終了すると、賞状を渡すようにしています。さらに、毎回実施される尿検査で陰性の結果が出た場合には、そのことがわかるスタンプを押します。こうした対応を通じて私たちは、患者に対して、「薬物を使わないことよりも治療の場から離れないことが大事」、「何が起ころうとも、一番大切なのはプログラムに戻ってくること」を伝えるようにしています。

第二に、セッションの場を患者にとって安全な場にすることです。この「安全」という言葉には二つの意味があります。一つは、セッションに参加することでかえって薬物を使いたくなったり、薬物を入手する機会となってしまわないことです。そこで、プログラム参加者全員に、プログラム参加時には「薬物の持ち込みや譲渡、売買はしない」ことを約束してもらっています。これには、毎回行う尿検査が一定の抑止力になっている面もあります。また、「再使用については正直にいうことは、薬物を使わないことと同じくらいよいことだが、使うときの詳細な状況については話さないように」というルールも作っています。というのも、注射器を皮膚に刺す場面や薬物摂取した際の感覚を詳細に語ることは、他の参加者の渇望を刺激する可能性があるからです。

もう一つの「安全」の意味は、秘密保持です。再使用を正直にいった結果、逮捕されたり、家族との関係が悪くなったりするといったことがないように、私たちは尿検査の結果を決して司法的な対応に使わないですし、患者の家族に伝えることもしません。当然ながら実際に参加者が尿検査で覚せい剤反応が陽性となることもありますが、そのときには「陽性が出るとわかっていながらプログラムに来た」ということを評価したうえで、再乱用防止のための方策を一緒に検討することとしています。私たちは、依存症からの回復には世界で少なくとも1箇所は正直に「やりたい」、「やってしまった」といえる場所が必要であり、プログラムはそのような場所として機能すべきと考えています。

最後に心がけている点は、プログラム無断欠席者に対する積極的なコンタクトです。これまで依存症臨床は、「去る者は追わず」というスタンスが原則でしたが、私たちは「去ろうとする者を追いかける」ようにしている。具体的には、セッションの無断キャンセルがあった場合には、あらかじめ本人から同意を得たうえで、彼らの携帯電話に連絡をしたり、メールを送るようにしています。

5. スマープによる介入効果

以上のようなコンセプトから開発されたスマープですが、最初の試行から得られた結果に私たちは驚きました。というのも、従来のせりがや病院の外来治療法では、外来に初診した覚せい剤依存症患者のうち、3ヶ月後にも治療を継続している者の割合はわずかに3～4割であったのに対し、スマープに導入された群は、治療継続率がつねに7～9割という高い数値を示したからです[1]。さらに2010年から3年間にわたって、私たちのプログラムは厚生労働科学研究障害者対策総合研究事業による研究助成（『薬物依存症に対する認知行動療法プログラムの開発と効果に関する研究』

研究班：研究代表者 松本俊彦）を受け、効果検証と各地への本格的な普及を行いました。その研究班活動から明らかにされたのは、スマープなどのワークブックを用いた集団プログラムは、治療の継続性を高めるだけでなく、自助グループのような他の支援資源の利用率を高める、ということでした（**図2**）[3]。

海外の多くの研究が、薬物依存に有効な治療とは、ある特定の治療技法ではなく、いかなる治療技法でもよいからとにかく長く続けることであることを明らかにしています[6]。このことは、地域プログラムに求められる重要な要素とは何よりもまず治療脱落率の低さであることを意味しています。その意味では、スマープは十分に効果的な治療方法であるといえるでしょう。

Ⅲ．スマープ・プロジェクトの展開

1．スマープの普及状況

スマープ開始から1年後、筆者が10年あまり依存症家族教室嘱託医を務めてきた東京都多摩総合精神保健福祉センターでも、スマープサイズダウンした薬物再乱用防止プログラム「タマープ TAMARPP（Tama Relapse Prevention Program）」がスタートしました。さらにその翌年以降、埼玉県立精神医療センター（「ライフ LIFE」）、肥前精神医療センター（「シャープ SHARPP」）、東京都中部総合精神保健福祉センター（「OPEN」）でも次々と同様のプログラムが始まりました。

こうしたプロジェクトのなかには、医療機関や行政機関の援助者が地元のダルクと連携して運営されているものも少なくありません（例：栃木県薬務課・栃木ダルク「ティ・ダープ T-DARPP」、浜松市精神保健福祉センター・駿河ダルク「ハマープ HAMARPP」、熊本県精神保健福祉センター・熊本ダルク「クマープ KUMARPP」、広島県立総合精神保健福祉センター・広島ダルク「ヒマープ HIMARPP」など）。このような共同運営には様々なメリットがありますが、何よりも、このプログラムだけでは安定した断薬生活を獲得できない者を、プログラムからダルクへとつなげやすくなる、という点に重要です。

しかし何よりも、精神保健福祉センターなどの専門職援助者が当事者スタッフとの共同作業を行うことで、薬物依存症に対する忌避的感情や苦手意識を克服するだけでなく、薬物依存症に対する援助技術の向上も期待できる、という効果があるのです。つまり、プログラム実施を通じてダルクスタッフと交流する機会が増えることで、薬物依存症に関する知識や自信がついてきて、いっしたちょっとした「プチ専門家」へと育ってくれるのです。こうした効果はすでに私たちの研究においても確認されています[3]。なお、本稿を執筆している2013年6月末現在で、医療機関34箇所、保健・行政機関9箇所、民間機関11箇所でスマープ類似のプログラムが実施されています（**表1**）。

ただ、くれぐれも誤解しないでほしいことがあります。私たちは自分たちのプログラムが決して「最高の治療方法」などとは考えていないということです。やはりなんといっても最高の治療方法は、「かつて自分と同じように薬物に振り回される生活を体験したものの、いまは薬物をやめている人」と出会い、「あの人の生き方なんか格好いいな。ちょっと真似してみようか」と考えて、一緒に自助グループにミーティングに参加しているうちに薬物が止まるといった、具体的な「ロールモデル」と出会えるプログラムだと思います。料理にたとえるならば、そうした治療プログラムこそが高級フレンチであり、高級懐石料理であり、一方、私たちがやっている治療は、いわばファーストフードみたいなものでしかないと考えています。

決して自分たちの試みを卑下しているわけではありません。これまでのわが国における薬物依存者支援体制の問題点は、たとえるならば、一人で外食するのに抵抗感のある人でも入りやすい、「ファーストフード」的な店がなかった、という点にあると思うのです。私たちは、そのようなアクセシビリティのよいプログラムを国内各地に展開したいと考えています。

2．治療プログラムの意義とは？

スマープの最大の効果は、自助グループやダルクなどの民間リハビリ施設への橋渡しができる点にあります。筆者は、スマープ・プロジェクトに参加している、ある精神保健福祉センターのスタッフから、興味深いエピソードを教えてもらったことがあります。

その精神保健福祉センターの依存症家族教室に、息子の覚せい剤のことで悩みながら参加しつづける家族がいました。なかなか本人の薬物使用は止まらず、本人も治療を受ける気持ちになりませんでしたが、家族が家族教室に通いはじめて3年目に、ついに転機が訪れました。その息子が自分の薬物問題を相談する決心をかため、実際に精神保健福祉センターやって来たのです。

しかし、そこからが大変でした。精神保健福祉センターの相談員が面接してみると、彼はやはり重篤な覚せい剤依存を呈していることが判明しました。生活自体が破綻しかけており、ダルクに入寮して、一から生活の立て直しが必要な状況でした。そこで相談員は、「かなり深刻な依存に陥っているから、ダルクに入寮した方がいいのではないか」と伝えましたが、彼は、「絶対にいやだ。そんなところに入るくらいなら、死んだ方がまし」と強硬に拒絶し、とりつくしまがありませんでした。

以前だったらば、「困ったらまた相談に来てね」と伝えて、相談関係は一旦打ち切りとしたところ

だったでしょう。しかし、その精神保健福祉センターではすでにスマープを実施していたので、相談員は「ダメもと」で、「じゃ、うちでやっている再乱用防止プログラムに参加する?」と提案しました。すると意外なことに、その薬物依存者は、「そっちだったら、参加してやってもいい。ただし、俺は薬をやめる気はないけどな」と返事をしたのです。それで、ひとまずはプログラムに参加してもらうことになりました。彼はやや不規則ながらではありましたが、プログラムに参加しつづけました。覚せい剤は相変わらず使っていたものの、プログラムの雰囲気は気に入ったようでした。

プログラムに参加して1年ほどが経過した日のことである。彼から、「あんたたち一生懸命やってんのはわかるけど、こんなプログラムじゃ、俺、薬とまんないよ。ダルクに入るわ」という話があったのです。その後、彼はダルクに入寮し、3年の月日が経過しました。現在、彼はダルクのスタッフとして入寮者の世話をしながら、その精神保健福祉センターでスマープの運営スタッフとしても活躍しています。

これこそがプログラムの成果である、と私たちは考えています。もしも彼が「ダルクに入寮した方がよい」という提案を断ったときに、その相談員が援助関係を打ち切っていたら、おそらく彼はまだ覚せい剤を使っていたはずでしょう。プログラムにつながり、そのなかで失敗を繰り返しながら、少しずつ自分の問題の深刻さと向き合うようになったように思います。要するに、本当の「底つき体験」とは、家族や仕事を失うことでも逮捕されることでもなく、援助のなかで体験するものなのでしょう。そして、そのためには、「安全に失敗できる場所」、さらには「失敗したことを正直にいえる場所」が必要なのです。プログラムとはまさにそのような場といってよいでしょう。

Ⅳ. おわりに

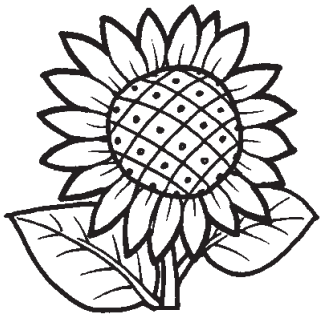
これまで精神科医療機関の多くが、薬物依存症患者を「犯罪者」と捉え、忌避的に対応してきた経緯があります。また、わが国の薬物問題施策そのものが、「治療」よりも「取り締まり」を重視したものでした。

それでも、近年になってようやく刑務所内でも薬物再乱用防止プログラムが実施されるようになり、状況は好転しつつあります。しかし、ただそれだけでは不十分です。というのも、薬物依存症の治療は、それがいかに優れた治療法であっても、決してその効果を「貯金」することはできないからです。司法機関で治療プログラムに参加した後には、やはり地域でも同様のプログラムが継続される必要があるのです。

思い切ったいい方をすれば、薬物依存症は「治りたくない病気」です。どんな治療意欲があるように見える薬物依存症患者でも、「本当は薬物をやめたくない」というのが本音でしょう。ですから、治療意欲はたえず揺らぎ、移ろいやすいのであり、治療プログラムは「継続性が高い」もの、患者が「参加したい」と思ってくれるようなものである必要があるのです。その意味では、スマープはそのような治療プログラムの一つであると、私たちは考えています。

文献

1. 小林桜児，松本俊彦，大槻正樹，ほか：覚せい剤依存者に対する外来再発予防プログラムの開発―Serigaya Methamphetamine Relapse Prevention Program (SMARPP)―．日本アルコール・薬物医学会誌，42: 507-521, 2007.
2. 松本俊彦，小林桜児，今村扶美：薬物・アルコール依存症からの回復支援ワークブック．金剛出版，東京，2011.
3. 松本俊彦：薬物依存症に対する認知行動療法プログラムの開発と効果に関する研究：総括報告書．平成23年度厚生労働科学研究費補助金障害者対策総合研究事業（精神障害分野）「薬物依存症に対する認知行動療法プログラムの開発と効果に関する研究（研究代表者：松本俊彦）」総括・分担研究報告書，pp1-10, 2012.
4. Matrix Institute: http://www.matrixinstitute.org/index.html
5. National Institute of Drug Abuse (NIDA): http://www.drugabuse.gov/PODAT/PODAT1.html



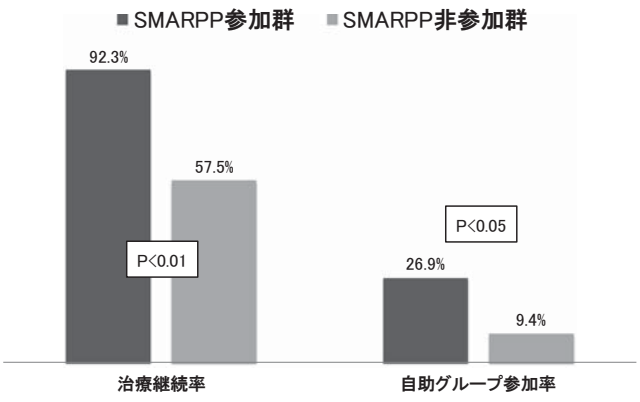


図2　国立精神・神経医療研究センター病院薬物依存症専門外来通院患者の初診後 3 ヶ月時点における治療継続率と自助グループ参加率の比較：SMARPP参加群・非参加群の比較（文献 3 をもとに作成）

第 1 回　なぜアルコールや薬物をやめなきゃいけないの？
第 2 回　引き金と欲求
第 3 回　精神障害とアルコール・薬物乱用
第 4 回　アルコール・薬物のある生活からの回復段階
第 5 回　あなたのまわりにある引き金について
第 6 回　あなたのなかにある引き金について
第 7 回　生活のスケジュールを立ててみよう
第 8 回　合法ドラッグとしてのアルコール
第 9 回　マリファナはタバコより安全？
第10回　回復のために―信頼、正直さ、仲間
第11回　アルコールを止めるための三本柱
第12回　再発を防ぐには
第13回　再発の正当化
第14回　性の問題と休日の過ごし方
第15回　「強くなるより賢くなれ」
第16回　あなたの再発・再使用のサイクルは？

図1　SMARPP-16ワークブックの目次、ならびに、SMARPP-16、SMARPP-28、市販版ワークブックの表紙

表1　SMARPPなどの「薬物依存症に対する認知行動療法プログラム」の国内実施状況（2013年 5 月末現在）

地区	都道府県名	医療機関	保健・行政機関	民間非医療機関
北海道・東北	北海道	北仁会旭山病院		
		札幌大田病院（アルコールのみ）		
		札幌トロイカ病院		
	青森県			
	秋田県			
	岩手県			
	福島県			
関東甲信越	栃木県	栃木県立岡本台病院（医療観察法病棟のみ、準備中）	栃木県薬務課	栃木ダルク
	茨城県	茨城県立こころの医療センター		
	群馬県	群馬県立精神医療センター（医療観察法病棟のみ）		アパリ藤岡
		赤城高原ホスピタル		
	埼玉県	埼玉県立精神医療センター		
	千葉県	秋元病院（アルコールのみ）		千葉ダルク・館山ダルク
		船橋市立病院（アルコールのみ）		
	東京都	独立行政法人国立精神・神経医療研究センター病院		洗足ストレスコーピング・セルフサポート・オフィス
		東京都立松沢病院（医療観察法病棟のみ）		NPO法人 SUN（アルコールのみ）
		昭和大学附属烏山病院（急性期病棟のみ）		
		井之頭病院（アルコールのみ）	東京都多摩総合精神保健福祉センター	
		桜ヶ丘記念病院（アルコールのみ）	東京都中部総合精神保健福祉センター	
			東京都精神保健福祉センター	
	神奈川県	神奈川県立精神医療センターせりがや病院		横須賀GAYA
		神奈川県立精神医療センター芹香病院（医療観察法病棟のみ）		横浜ダルク
				川崎ダルク

関東甲信越	山梨県	山梨県立北病院（医療観察法病棟のみ）		
	長野県	長野県立こころの医療センター駒ヶ根		
	石川県			
	新潟県	独立行政法人国立病院機構犀潟病院（医療観察法病棟のみ）		
東海・北陸	静岡県		浜松市精神保健福祉センター	
	愛知県	桶狭間病院藤田こころケアセンター（アルコールのみ）		
		八事病院（アルコールのみ）		
		独立行政法人国立病院機構東尾張病院（医療観察法病棟のみ）		
		医療法人和心会あらたまこころのクリニック（アルコールのみ）		
	岐阜県			
	三重県	三重県立こころの医療センター（アルコールのみ）		
	富山県	独立行政法人国立病院機構北陸病院（医療観察法病棟のみ）		
	福井県			
近畿	滋賀県	滋賀県立精神医療センター		
	京都府		京都府薬務課	
	大阪府	大阪府精神医療センター		
		新阿武山クリニック（アルコールのみ）		
	奈良県	独立行政法人国立病院機構やまと精神医療センター（医療観察法病棟のみ）		GARDEN（旧・奈良ダルク）
	和歌山県	和歌山県立こころの医療センター		
	兵庫県			
中国・四国	鳥取県			
	島根県			
	岡山県	岡山県精神科医療センター		
	広島県	医療法人せのがわ瀬野川病院	広島県精神保健福祉総合センター	
	山口県			
	徳島県			
	愛媛県			
	香川県			
	高知県			
九州・沖縄	福岡県		北九州市精神保健福祉センター	
	佐賀県	独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター		
	長崎県			
	大分県			大分ダルク
	熊本県		熊本県精神保健福祉センター	
	宮崎県			
	鹿児島県			
	沖縄県			琉球GAIA

普及運動・国連支援募金
「ダメ。ゼッタイ。」の合言葉

平成25年度も厚生労働省、都道府県、（公財）麻薬・覚せい剤乱用防止センターが主催し、国際連合（薬物犯罪事務所）、薬物乱用対策推進会議のほか警察庁など関係11省庁の協賛及びボーイスカウト、ガールスカウト、ライオンズクラブ、ロータリークラブほか45団体後援のもとに「ダメ。ゼッタイ。」普及運動が実施され、その一環としての「6・26ヤング街頭キャンペーン」は、6月27・28日を中心に約一カ月間、各都道府県で実施されました。（744ヶ所、約58,582人参加）

本普及運動は、新国連薬物乱用根絶宣言（2009～2019年）の支援事業の一環として、官民一体となり、国民一人一人の薬物乱用問題に対する認識を高め、併せて、国連決議による「6・26国際麻薬乱用撲滅デー」の周知を図り、内外における薬

ダメ。ゼッタイ。
全国にコダマする

物乱用防止に資するために実施されるものです。

（公財）麻薬・覚せい剤乱用防止センターでは、この運動と並行して、麻薬乱用防止活動に従事する民間団体の活動資金を国連を通じて支援するための「国連支援募金」運動を実施し、本年も全国から善意の浄財が集まりました。

また同期間中には、各種薬業関係団体、理・美容、クリーニング、浴場、飲食業等の各環境衛生同業組合等のご協力により、店頭でののぼり、ポスター掲出、「一声運動」による啓発、募金運動などを行う「地域団体キャンペーン」も全国的に実施されました。

以下、各都道府県からお寄せいただいた「6・26ヤング街頭キャンペーン」等の状況をご報告いたします。

北海道

月日	開催場所	活動主体	参加人員
6月15日～8月28日（予定を含む）	函館市、乙部町、上ノ国町、厚沢部町、奥尻町、江差町、鶉町、館町、江差北町、青苗町、八雲町、小樽市、札幌市、岩見沢市、滝川市、深川市、登別市、苫小牧市、新ひだか町、旭川市、名寄市、富良野市、留萌市、稚内市、北見市、遠軽町、帯広市、釧路市、根室市計29ヶ所（17市12町）	北海道、北海道警察本部、北海道薬物乱用防止指導員連合協議会、北海道薬物乱用防止指導員各地区協議会（21地区）、ヤングボランティア（ボースカウト、ガールスカウト、中学生、高校生、大学生等）、薬業関係団体、保護司会、青少年育成団体、関係行政機関等	約700人

活動状況

①6・26ヤング街頭キャンペーン

全道21地区で、北海道薬物乱用防止指導員、ヤングボランティア（ボーイスカウト、ガールスカウト、中学生、高校生等）、薬業関係団体会員、保護司、民生委員、警察官、市町村職員、保健所職員等あわせて約700人が、大型スーパーやデパート前、各祭事イベント会場、大学祭、登校時の中学校校門前において、道民を対象に、違法ドラッグ、大麻等の薬物の乱用防止に関するチラシ、ポケットティッシュ等の啓発資材を配布するとともに、のぼり、ポスターを掲示し、薬物乱用防止への理解と協力を呼びかけた。

②地域団体キャンペーン

6月20日～7月19日までの間、道内約400店舗（薬局、薬店、道の駅、温泉、スーパー等）の協力を得て、麻薬・覚せい剤等の乱用防止に関するチラシ等の配布、ポスターの掲示を行うとともに、違法ドラッグ、大麻等の危害について青少年に対して「一声運動」を実施するとともに、国連支援募金箱の協力を得た。

北海道

青森県

青森県

月日	開催場所	活動主体	参加人員
6月22日	（青森市）ドリームタウンALi（弘前市）さくら野百貨店弘前店、ワーナー・マイカル・シネマズ弘前、メディアイン城東店、コジマNEW弘前店（八戸市）八食センター、伊吉書院西店、ドリームサンワドー八食店	主催：青森県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会協力団体：薬剤師会、医薬品登録販売者協会、医薬品配置協会、ライオンズクラブ、ボーイスカウト、ガールスカウト、青森大学薬学部、青森県薬物乱用防止指導員各地区協議会	212名（内訳）薬剤師会（43）、医薬品登録販売者協会（17）、医薬品配置協会（23）、ライオンズクラブ（23）、ボーイスカウト（17）、ガールススカウト（40）、青森大学薬学部（16）、青森県薬物乱用防止指導員各地区協議会（15）、青森県（18）

活動状況

①6・26ヤング街頭キャンペーン

6・26ヤング街頭キャンペーンとして、通行人等に対し啓発用パンフレット、バンソウコウ等の配布及び国連支援募金活動を行った。（実施日等は右記参照）

②パネル展示

さくら野弘前店アクアリウム前催事場にて、薬物乱用防止啓発パネル及び植えてはいけないケシのパネルを展示し、啓発活動を実施した。

③地域団体キャンペーン

平成24年6月20日から7月19日までの1か月間、県内一円において青森県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員及び青森県薬物乱用防止指導員が中心となり、地域の飲食店や薬店等の協力を得て、各店舗において国連支援募金活動を実施するとともに、薬物乱用防止指導員や各関係機関等の協力を得て、リーフレットやポスター等の啓発資材の配布及び掲示を行った。

岩手県

月日	開催場所	活動主体	参加人員
6月22日、7月7日	イオンモール盛岡（盛岡市）、マイヤ大船渡インター店（大船渡市）計2ヶ所	岩手県薬物乱用防止指導員、管内ボーイスカウト、管内ガールスカウト、県央保健所、大船渡保健所	県央（16名）、大船渡（13名）合計（29名）

活動状況

①6・26ヤング街頭キャンペーン

県内2会場にて、薬物乱用防止指導員、ボーイスカウト及びガールスカウトが中心となり、薬物標本やポスター、薬物乱用パネルの展示、一声運動、リーフレットや絆創膏の配布及び横断幕やのぼりの掲示により薬物乱用防止啓発を行った。

②地域団体キャンペーン

県薬剤師会、県生活衛生同業組合等の協力店舗においてポスター掲示、薬物乱用防止の呼びかけを行った。

その他、夏の高校野球岩手県大会会場内に啓発横断幕を設置し、広く県民に対し薬物乱用防止の普及啓発を行った。

岩手県

宮城県

月日	開催場所	活動主体	参加人員
7月20日（石巻・気仙沼）、5月25日（登米）	イオン石巻店（石巻市） イオン気仙沼店（気仙沼市） 市民活き生き健康フェスティバル会場（登米市）	宮城県石巻保健所、石巻警察署、石巻地区薬物乱用防止指導員協議会、石巻中央ライオンズクラブ、石巻日和ライオンズクラブ、一般社団法人石巻薬剤師会、宮城県医薬品登録販売者協会石巻支部、高校生ボランティア 宮城県気仙沼保健所、気仙沼市、気仙沼警察署、気仙沼地区薬物乱用防止指導員協議会、高校生ボランティア 宮城県登米保健所、登米地区薬物乱用防止指導員協議会、登米市薬剤師会	約2，800人

活動状況

①6・26ヤング街頭キャンペーン

イオン石巻店における啓発キャンペーンでは、ヤングボランティア（宮城県石巻好文館高等学校）、石巻地区薬物乱用防止指導員が中心となり、石巻中央ライオンズクラブ・石巻日和ライオンズクラブ・一般社団法人石巻薬剤師会・宮城県医薬品登録販売者協会石巻支部の協力を受け、薬物乱用防止一声運動、クリアファイル、ポケットティッシュ等の啓発資材の配布等「ダメ。ゼッタイ。」普及運動を実施し、若年層にも広がる薬物乱用の未然防止を図るため、地域住民への理解と協力を呼びかけた。（石巻地区）

イオン気仙沼店における啓発キャンペーンでは、ヤングボランティア（宮城県気仙沼向洋高等学校生徒）及び気仙沼地区薬物乱用防止指導員等が中心となって、薬物乱用防止一声運動やリーフレット、絆創膏、うちわ等の啓発資材を配布する等「ダメ。ゼッタイ。」普及運動を実施し、若年層にも広がる薬物乱用の未然防止を図るため、地域住民への理解と協力を呼びかけた。（気仙沼地区）

②地域団体キャンペーン

市民活き生き健康フェスティバル会場内において、登米地区薬物乱用防止指導員及び登米市薬剤師会と協力し、会場内には啓発用ブースを設け、薬物標本、啓発パネルを展示し、違法な薬物等による危害等を訴えた。また、会場内でリーフレットや絆創膏等の啓発資材を配布し、薬物乱用防止について啓発活動を行った。（登米地区）

宮城県

秋田県

月日	開催場所	活動主体	参加人員
6月21日、22日、23日、26日、30日、7月1日、2日、4日、7日、11日、13日	イオンスーパーセンター大館店（大館市）6月30日、いとく鷹巣ショッピングセンター（北秋田市）7月13日、JR能代駅・JR東能代駅（能代市）6月26日、JR秋田駅（秋田市）6月26日、JR男鹿駅（男鹿市）7月1日、JR船越駅（男鹿市）7月2日、JR脇本駅（男鹿市）7月2日、ショッピングセンターアマノ井川店（井川町）7月11日、由利本荘市文化交流館（カダーレ）（由利本荘市）6月23日、JR角館駅（仙北市）6月21日、イオンモール大曲（大仙市）6月30日、六郷高等学校校門前（美郷町）7月4日、イオン横手店（横手市）6月22日、湯沢市柳町商店街（「第28回湯沢市ふれあい広場」会場内）（湯沢市）7月7日　計14か所	「ダメ。ゼッタイ。」普及運動秋田県実行委員会 ・大館鹿角地域実行委員会・本荘由利地域実行委員会・鷹巣阿仁地域実行委員会・大曲仙北地域実行委員会・能代山本地域実行委員会・横手平鹿地域実行委員会・秋田周辺地域実行委員会・湯沢雄勝地域実行委員会	計510人

活動状況

ヤングボランティア（高校生・専門学校生等）の協力を得て、駅などの公共施設、商店街、大型ショッピングセンター等において横断幕、のぼり、なまはげ、着ぐるみ等を活用しながら、次の活動を実施した。

・「ダメ。ゼッタイ。」一声運動・内閣府特命担当大臣メッセージ伝達・リーフレット、ポケットティッシュ等啓発資材の配布・国連支援募金活動・県警薬物乱

用防止広報車「みちびき号」を活用した啓発

秋田県

リーフレット、ティッシュ等の配布、「ダメ。ゼッタイ。君」着ぐるみの活用により、薬物乱用防止を呼びかけるとともに国連支援募金活動を行った。

②地域団体キャンペーン

37協賛団体にポスター、リーフレット、募金箱を送付し、各団体構成員への薬物乱用防止の啓発及び募金活動を実施した。

また、6月20日に山形県薬剤師会の薬事衛生指導員、保健所職員等が、山形駅構内において、主に通学中の高校生を対象にリーフレット、ティッシュを配布して、違法ドラッグ等の乱用防止の呼びかけを行った。

山形県

月日	開催場所	活動主体	参加人員
6月9日、23日、29日、7月7日	ヨークベニマル新庄店、ドラッグストアマツモトキヨシ アクロスプラザ新庄店、イオン米沢店、イオンモール山形南店、イオンモール三川店 計4ヶ所	県内各保健所	221名

活動状況

①6・26ヤング街頭キャンペーン

県内4ヶ所の開催場所に薬物乱用防止広報車を配置し、学生ボランティア、薬物乱用防止指導員、少年補導員等による

山形県

福島県

月日	開催場所
6月18日～7月12日	【県北】（福島駅東口駅前広場）6月22日、（ヨークベニマル梁川店）7月10日、（SUPER CENTER PLANT-5大玉店前）7月3日 【県中】（ザ・モール郡山店）6月26日、（イオンタウン須賀川）7月3日、（県立石川高等学校）6月20日、（学法石川高等学校）6月24日、（県立小野高等学校平田校（西山小学校仮校舎））6月18日、（メガステージ田村）（リオンドール船引店）7月5日 【県南】（メガステージ白河）6月29日、（ヨークベニマル棚倉店前）7月5日 【会津】（アピタ会津若松店）6月22日、（お田植え祭り会場周辺（諏訪神社前等））7月7日、（ヨークベニマル喜多方店）7月12日 【南会津】（リオンドール田島店）6月22日 【相双】（イオン相馬店前）7月12日 【いわき市】（イオンいわき店）6月23日 計16市町村 18ヵ所

活動主体	参加人員
県、県薬物乱用対策推進本部、「ダメ。ゼッタイ。」県普及運動実行委員会、各地区薬物乱用防止指導員協議会（県内15区）、関係団体、ヤングボランティア（ボーイスカウト、ガールスカウト、高校生、専門学校生等）	1,057名

活動状況

①6・26ヤング街頭キャンペーン

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動期間中に、県内16市町村・18ヵ所において6・26ヤング街頭キャンペーンを開催した。なかでも福島市においては、キャンペーンに併せて「6・26ヤング街頭キャンペーンセレモニー」を開催し、ヤングボランティア代表による「ダメ。ゼッタイ。」麻薬撲滅宣言等を行い、併せてアトラクションとして福島県警察音楽隊による演奏等を企画し実施した。

その他の地区においても薬物乱用防止指導員、ヤングボランティア、関係団体の協力を得て、JR駅前、ショッピングセンター等においてリーフレット、ポケットティッシュ、風船などを配付しながら薬物乱用防止を訴えるとともに、ヤングボランティアが中心となり、国連支援募金活動を実施した。

②地域団体キャンペーン

関係行政機関、企業、薬局等の協力を得て、ポスター掲示やパンフレット配布を行い、また、国連支援募金活動を通じて一般住民等への啓蒙活動を行った。

③その他

・全国高等学校野球選手権福島大会が実施されている3ヵ所の球場に横断幕【薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」】を掲示し、啓発を図った。

・FMラジオ番組を通じて、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動、国連支援募金の広報を行った。

福島県

茨城県

月日	開催場所	活動主体	参加人員
6月20日～8月4日	水戸市、ひたちなか市、常陸太宮市、高萩市、鉾田市、神栖市、守谷市、土浦市、つくば市、筑西市、常総市、八千代町、坂東市、五霞町、古河市 計17ヵ所（※複数回実施市あり）	県、県薬物乱用対策推進本部、県薬物乱用防止指導員協議会、ヤングボランティア（中・高校生）、関係団体、関係機関	約1，300名

活動状況

①6・26ヤング街頭キャンペーン

県内17ヵ所で、薬物乱用防止指導員が中心となり、中学生・高校生等のヤングボランティアに加え、薬事関係団体、ライオンズクラブ、ロータリークラブ、県青少年育成協会・青少年育成市町村民会議・市町村、警察等の協力を得て、街頭においてリーフレット、カットバン、ポケットティッシュ等の啓発資材を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。併せて、国連支援募金活動を行った。また、各地区において広報誌等を利用して地域に根ざした啓発活動を効果的に実施した。

②地域団体キャンペーン

県内の薬局等の薬事関係施設、理・美容所、旅館等の生活衛生営業施設、食品関係施設、病院・診療所、大学・専門学校等約3，000の店舗・施設の協力を得て、ポスターの掲示やリーフレットの配布を実施した。併せて店頭等に募金箱を設置し、国連支援募金への協力を呼びかけた。

③その他

高校野球県大会会場（6球場）・国営ひたち海浜公園（ロックフェスティバル2013会場）において横断幕の掲示を行い、来場者に対する啓発を行った。

また、平成22年3月に開港した茨城空港においても、利用者に対してキャンペーンを行い、違法ドラッグ等に関する注意喚起を行った。

茨城県

栃木県

栃木県

月日	開催場所	活動主体	参加人員
6月22日、26日、29日	●宇都宮（29日）FKDインターパーク店、オリオン通り商店街、パルコ宇都宮店 ●県西（22日）イオン今市店 ●県南（22日）イオンモール小山 ●県北（26日）JR矢板駅西口 ●安足（22日）アピタ足利店、イオン佐野新都市店 計8ヶ所	栃木県 宇都宮市	251名 （内訳）指導者（37）、ボーイスカウト（29）、ガールスカウト（35）、事務局（32）、その他（18）

活動状況

①6・26ヤング街頭キャンペーン

県内8ヶ所で薬物乱用防止指導員、ヤングボランティア（ボーイスカウト、ガールスカウト、中・高校生）、関係機関、そして、今年度も栃木サッカークラブ（Jリーグ ディビジョン2）の参加により啓発資材の配布や国連支援募金活動を実施した。

さらに、当キャンペーンの趣旨や、薬物のおそろしさを説明し、本事業の目的である薬物乱用を根絶するための活動を実施した。

②広報による啓発

啓発ポスターを掲示した。（市町、警察、県出先機関、県立高等学校等の施設）

③その他の啓発活動

7月27日、栃木県グリーンスタジアムにて開催される栃木サッカークラブの試合前に、薬物乱用防止指導員による啓発活動を実施した。

群馬県

月日	開催場所
6月22日～29日	前橋市（①JR前橋駅、②新前橋駅、③前橋大島駅）、高崎市（④高崎駅東口駅及び西口ペデストリアンデッキ）、渋川市（⑤JR渋川駅）、伊勢崎市（⑥スーパーモールいせさき）、安中市（⑦JR安中駅）、藤岡市（⑧JR群馬藤岡駅）、富岡市（⑨ベイシア富岡店）、吾妻郡中之条町（⑩JR中之条駅）、沼田市（⑪JR沼田駅）、太田市（⑫イオンモール太田、⑬ニコモール）、桐生市（⑭大間々高校、⑮JR桐生駅、⑯上毛電鉄西桐生駅）、館林市（⑰東武鉄道館林駅） 計17ヵ所

群馬県

活動主体	参加人員	活動状況
群馬県、前橋市、高崎市、群馬県薬物乱用対策推進本部、群馬県「ダメ。ゼッタイ。」薬物乱用防止推進連絡協議会、「ダメ。ゼッタイ。」各地区推進連絡会議（12地区）、ヤングボランティア（ボーイスカウト、ガールスカウト、高校生等）、関係団体（薬剤師会、保護司会、民生・児童委員協議会、登録販売者協会、医薬品配置協会、ライオンズクラブ、更生保護女性会、食品衛生協会、ロータリークラブ等）	718人	①県内17ヵ所で、薬物乱用防止指導員、ヤングボランティア、関係団体、警察関係職員、県職員、保健所及び保健福祉事務所職員、市町村職員等、合計718人が駅前やショッピングセンター、高校等において、リーフレット、違法ドラッグにかかる啓発チラシ、ポケットティッシュ、絆創膏等の啓発資材を配布しながら薬物乱用防止を呼びかけた。また、ヤングボランティアが中心となって、国連支援募金活動を行った。 ②地域団体キャンペーンとして、薬局や飲食店、理容店、クリーニング店、旅館等の協力を得て、ポスターの掲示及び一声運動を実施し、併せて店頭に募金箱を設置してもらい国連支援金募金活動への協力を呼びかけた。 ③7月6日から27日までの期間、第95回全国高等学校野球選手権群馬大会が実施された上毛新聞敷島球場及び高崎城南球場に「ダメ。ゼッタイ。」の横断幕を掲出した。

埼玉県

月日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月20日～7月19日	東武東上線朝霞台駅周辺、東武伊勢崎線春日部駅、東武伊勢崎線越谷駅、越谷市民球場、草加松原遊歩道（草加朝顔市会場）、大東文化大学、東武東上線高坂駅、東武東上線東松山駅、丸広東松山店、シルピア、西友東松山店、ピオニウォーク東松山、東武東上線坂戸駅、東武東上線北坂戸駅、東武東上線若葉駅、西武ドーム、東武伊勢崎線加須駅、羽生市内、東武伊勢崎線東武動物公園駅、本庄祇園まつり会場、あめ薬師縁日会場（秩父地方庁舎近辺）、ほか計21か所	埼玉県、さいたま市、川越市、埼玉県薬物乱用防止指導員協議会、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動埼玉県実行委員会、埼玉県薬物乱用対策推進会議、ライオンズクラブ330－C地区、日本ボーイスカウト埼玉県連盟、県教育委員会、県警察本部、各市町村など	403人	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県内21か所の駅頭等で、パンフレット、うちわ、ポケットティッシュ等の啓発資材の配布、横断幕・のぼりの掲示、ボーイスカウトなどによる街頭募金を通じて、薬物乱用防止を訴えた。 なお、9月には浦和レッズの協力を得て、試合開始前に埼玉スタジアム2002において、ポケットティッシュ等の啓発資材を配布するとともに、グラウンド内に地元中学生が横断幕を持って入場し、薬物乱用防止を訴える予定。 ②地域団体キャンペーン 関係団体の店頭等にポスター掲示と募金箱の設置を依頼し、国連支援募金の呼びかけを行うとともに、関係団体が主催するキャンペーンにおいて啓発資材を配布した。また、地元企業の協力により電光掲示板等による啓発活動を実施した。 ③その他 県ホームページや広報紙、FM埼玉（NACK5）等の様々なマスメディアを活用し、薬物乱用防止の広報を実施した。

埼玉県

千葉県

月日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月1日～7月18日	習志野市、市川市、松戸市、野田市、成田市、香取市、銚子市、東金市、茂原市、勝浦市、夷隅郡大多喜町、館山市、鴨川市、木更津市、市原市、千葉市、船橋市、柏市　計19ヶ所	千葉県、千葉県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、千葉県薬物乱用防止指導員協議会	約700人	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県内19ヶ所において、各薬物乱用防止指導員地区協議会が中心となり、警察署、市町村の関係機関やライオンズクラブ、ロータリークラブ等の関係団体及びボーイスカウト、ガールスカウト等のヤングボランティアの協力を得て、ポケットティッ

千葉県

シュ、リーフレット等啓発資材の配布を行い薬物乱用防止を訴えた。
②地域団体キャンペーン
医師会、歯科医師会、薬剤師会、薬業会、理美容組合、クリーニング組合等の協力を得て、関係施設にポスターの掲示及び国連支援募金箱を設置し、薬物乱用防止を訴えた。
③広報啓発活動
県の広報紙、千葉テレビ、FM放送等の媒体を通じて薬物乱用防止を訴えた。

東京都

月日	開催場所	活動主体	参加人員
①6月29日 ②6月20日から7月19日まで	①6・26国際麻薬乱用撲滅デー都民の集い（池袋西口公園） ②街頭キャンペーン・地域団体キャンペーン（田無駅前、表参道駅前、ひばりが丘駅前、調布駅前、池上駅前、桜田公園、六本木ヒルズアリーナ、北沢タウンホール、荒川河川敷、平成つつじ公園、靖国通り、区民ホール、学校　他）	①都民の集い（主催：東京都、東京都薬物乱用対策推進本部、東京都薬物乱用防止推進協議会、厚生労働省、（公財）麻薬・覚せい剤乱用防止センター　共催：豊島区　後援：池袋西口商店街連合会、池袋組織犯罪根絶協会　協力：警視庁、株式会社ニーズプラス） ②地域団体（区市町村、東京都薬物乱用防止推進地区協議会　等）	①約4，100人 ②延80，000人

活動状況
①都民の集い
催し物
（1）式典（主催者・来賓挨拶等）（2）「ダメ。ゼッタイ。」トークライブ（出演者：蝶野正洋氏、PASSPO☆）（3）麻薬犬デモンストレーション（4）薬物乱用撲滅宣言
啓発活動企画展示
（1）薬物乱用防止企画展示（パネル等）（2）啓発活動（リーフレット・グッズ配布等）（3）国連支援募金活動（4）薬物乱用防止メッセージコーナー（5）着ぐるみ（「ダメ。ゼッタイ。君」・「ピーポくん」・「ゆりーと」
②街頭キャンペーン・地域団体キャンペーン
ダメ。ゼッタイ。普及運動期間中、都内各地で地域団体毎に工夫をこらした啓発活動などを行った。
【主な活動】啓発ポスターの掲示、薬物乱用防止教室、駅前キャンペーン、ライブ活動　等
③その他
都及び区市町村の提供番組や広報紙等で薬物乱用防止に関する内容を取り上げた。

神奈川県

月日	開催場所
6月～7月	JR（横浜、新横浜、川崎、相模原、橋本、戸塚、保土ヶ谷、根岸、藤沢、茅ヶ崎等）、小田急線（相模大野、本厚木等）、京浜急行線（上大岡、金沢八景、横須賀中央等）、東急田園都市線、相鉄線、横浜市営地下鉄等の各駅前、スタジアム、文化施設、商業施設等の県内各地約180ヶ所

活動主体	参加人員
県薬物乱用防止指導員協議会37支部、薬物クリーンかながわ推進会議（県薬剤師会、保護司会連合会、横浜税関、県内関係行政機関等啓発活動182団体）、市町村、教育委員会、県警察本部等	約12，000人

活動状況
着ぐるみ「ダメ。ゼッタイ。君」「ダメ。ゼッタイ。子ちゃん」が県内各地のイベントに出現！「ダメ。ゼッタイ。」を合言葉に薬物乱用防止を呼びかけた。また、県内ご当地マスコットキャラクターあゆコロちゃん、スカリン等も参加し、子ども達に人気があった。
県薬物乱用防止指導員協議会を中心に、スタジアムのグラウンドでの横断幕行進、児童・生徒が参加するキャンペーン、学校登校時の啓発活動、商店街パレード、お祭りでの啓発等、地域と一体となった啓発活動・国連支援募金活動を実施した。
各自治体では、ホームページや広報紙への掲載、パネル展の実施など、市長や議員もキャンペーンに参加し、啓発活動を行った。
キャンペーン、講演会、集会等の取り組みは、新聞、ミニコミ誌掲載となり、多くの県民の目に止まることができた。
※県薬務課公式ツイッター（@Kana_yaku）開設中。

東京都

神奈川県

新潟県

月日	開催場所	活動主体	参加員人	活動状況
6月15日、20日、22日、24日、25日、26日、27日、30日、7月4日、5日、6日、12日	村上市、新発田市、五泉市、燕市、長岡市、魚沼市、南魚沼市、十日町市、柏崎市、上越市、糸魚川市、佐渡市、新潟市　13市、18ヶ所	新潟県、新潟県薬物乱用対策推進本部（新潟県教育委員会、新潟県警察本部、新潟地方検察庁、新潟海上保安部、新潟保護観察所、新潟税関支署、新潟労働局、新潟少年鑑別所、東京入国管理局新潟出張所、新潟県医師会、新潟県精神科病院協会、公益社団法人新潟県薬剤師会、新潟県市長会、新潟県町村会）、新潟県薬物乱用防止指導員、一般社団法人新潟県歯科医師会、新潟県青少年健全育成県民会議、社会福祉法人新潟県社会福祉協議会、日本ボーイスカウト新潟連盟、一般社団法人ガールスカウト新潟県連盟、公益社団法人新潟県防犯協会、公益社団法人新潟県食品衛生協会、公益財団法人新潟県生活衛生営業指導センター、新潟県医薬品登録販売者協会、新潟県医薬品配置協議会、新潟県麻薬協会、新潟県高等学校野球連盟	約400人	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県内18会場において、ボーイスカウトやガールスカウト及び高校生等のヤングボランティアをはじめ、薬業関係団体やライオンズクラブ等の協力を得て、リーフレット・ポケットティッシュ・キズ絆創膏などの啓発資材を配布し、薬物乱用防止を呼びかけるとともに、国連支援募金活動を行った。 南魚沼市の会場では、地元で活動している新潟お笑い集団「NAMARA」のタレントの方からも参加協力をいただき、バルーン芸やコントなどを披露し、啓発活動を行った。 ②その他 ア　東北電力ビックスワンスタジアムで開催されたサッカーJ1アルビレックス新潟の試合において、大型映像装置により啓発ビデオを放映し、薬物乱用防止を訴えた。 イ　全国高等学校野球選手権大会新潟県大会期間中、会場の鳥屋野球場及びハードオフエコスタジアムに薬物乱用防止の懸垂幕及び横断幕を掲出し、高校生をはじめ広く県民に啓発を図った。 ウ　県庁構内等で薬物乱用防止啓発の横断幕、ポスターを掲出するとともに、庁舎内の生協売店や金融機関等に募金箱を設置し、来庁者等に対して啓発を行い、募金の協力を呼びかけた。

新潟県

富山県

月日	開催場所	活動主体	参加員人	活動状況
7月7日	富山市、高岡市、魚津市、滑川市、砺波市、射水市　計6市　6カ所	富山県薬物乱用「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会（41団体） ○6・26ヤング街頭キャンペーン参加者 ・高校生（9校・59人） ・富山県薬物乱用「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会 ガールスカウト富山県連盟、国際ソロプチミスト、富山県医薬品登録販売者協会、富山県医薬品配置協議会、富山県高等学校PTA連合会、富山県少年警察ボランティア連絡協議会、富山県内少年補導センター連絡協議会、富山県PTA連合会、富山県保護司会連合会、富山県防犯協会、富山県BBS連盟、富山県薬業連合会、富山県薬剤師会、日本塗料商業組合富山県支部、日本ボーイスカウト富山県連盟、ライオンズクラブ国際協会334－D地区（五十音順） ・警察職員、県職員、富山市保健所職員	257人	高校生、ボーイスカウト、ガールスカウトのヤングボランティアを中心に、薬物乱用防止指導員、ボランティア団体等が、県下6会場（繁華街、ショッピングセンター等）において横断幕やのぼりを掲示し、薬物乱用防止を呼びかけるとともに、リーフレット、絆創膏、ポケットティッシュ等の啓発資材を配布した。併せて、国連支援募金活動を実施した。 また、青少年が集うイベント（全国高校野球選手権富山大会、J2カターレ公式戦）において、会場での横断幕・ポスター掲示を行うとともに、場内放送及び啓発資材を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。 その他、交通広告を利用し、薬物乱用防止広報活動を実施した。

富山県

石川県

月日	開催場所	活動主体	参加人員
6月22日	金沢市、加賀市、かほく市、七尾市、輪島市　計5カ所	県、県警本部組織犯罪対策課、県警本部少年課、金沢市保健所、県薬物乱用防止指導員（県薬剤師会、県保護司会）、県医薬品登録販売者協会、県医薬品配置協議会、女性団体協議会、ボーイスカウト連盟、ガールスカウト県支部等	213人

活動状況

①6・26ヤング街頭キャンペーン

金沢駅前や大型ショッピングセンターなど県内5ヶ所において、ヤングボランティア団体（ボーイスカウト、ガールスカウト等）、薬物乱用防止指導員及び薬業団体の会員が中心となり、会場を訪れた買い物客等にリーフレットやポケットティッシュ等の啓発資材を配布し、広く県民に薬物乱用防止を訴えるとともに、ヤングボランティアが国連支援募金への協力を呼びかけた。

②地域団体キャンペーン

6月20日から7月19日までの期間、県薬剤師会等の地域団体の協力を得て、薬局や生活衛生営業施設等の店頭に「ダメ。ゼッタイ。」普及運動のポスター掲示と、薬物乱用による危害について一声かける「一声運動」を実施するとともに、店頭に募金箱を設置して国連支援募金に協力した。

③青少年への啓発活動

7月13日から開催された第95回全国高等学校野球選手権石川大会の期間中に、関係機関の協力を得て、「ダメ。ゼッタイ。」横断幕・ポスターを掲示し、試合中の電光掲示板に薬物乱用防止のメッセージを流すことで球場に応援に来た学生ら若者に薬物乱用防止の啓発を行った。

石川県

福井県

月日	開催場所	活動主体	参加人員
6月23日	福井市、坂井市、大野市、鯖江市、敦賀市、小浜市　県内計6か所	県、各警察署、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、県薬物乱用防止指導員協議会、ガールスカウト日本連盟福井県支部、日本ボーイスカウト福井連盟	約200人

活動状況

ヤングボランティア（ガールスカウト、ボーイスカウト）、薬物乱用防止指導員が中心となって、ショッピングセンター等の県内6か所で啓発物（リーフレット、ポケットティッシュ、絆創膏、風船等）の配布を行い、マスコット着ぐるみやのぼり等を使用した街頭キャンペーンを実施した。

さらに、ヤングボランティアが中心となって国連支援街頭募金活動を行った。

福井県

山梨県

月日	開催場所	活動主体	参加人員
6月22日	主要駅前、ショッピングセンター等　計12ヶ所	県、県薬物乱用対策推進本部、県・各地区薬物乱用防止指導員協議会、警察署、市町村、ライオンズクラブ、ロータリークラブ、医師会、歯科医師会、薬剤師会、医薬品登録販売者協会、医薬品配置協議会、保育園児・小学生・中学生・高校生、ガールスカウト等	630人

活動状況

①6・26ヤング街頭キャンペーン

県内4保健所1支所単位の各地区薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、各関係機関・団体等の協力を得る中で、参加学生代表による「内閣府特命担当大臣メッセージ」の披露をはじめとした式典を開催した。それに引き続き、参加学生・ガールスカウトが中心となって、リーフレットその他啓発資材の配布等による薬物乱用防止の呼びかけを行うとともに、国連支援街頭募金活動を行った。併せて、ポスター、のぼり、横断幕を掲示し、普及啓発に努めた。

②地域団体キャンペーン

運動期間中、各関係機関・団体や市町村役場等にリーフレットその他啓発資材等の配布を行うとともに、ポスターの掲示、募金箱の設置等を依頼し、薬物乱用防止の働きかけを行った。

山梨県

長野県

月日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月19日～6月26日	イオンモール佐久平前、ＪＲ佐久平駅前、イオン上田店前、ＪＲ上田駅前、アピタ岡谷店前、アピタ伊那店前、アピタ飯田店前、ＪＲ木曽福島駅前、木曽青峰高校前、南木曽中学校前、ＪＲ松本駅前、カインズホーム大町店前、大町高等学校前、大町北高等学校前、池田工業高等学校前、白馬高等学校前、長野電鉄須坂駅前、長野電鉄信州中野駅前、ＪＲ飯山駅前、ＪＲ北飯山駅前、ＪＲ長野駅前 計　15市町村　21ヶ所	「ダメ。ゼッタイ。」普及運動長野県実行委員会参画４機関・23団体県、県薬物乱用対策推進協議会、地区薬物乱用対策推進協議会、県医師会、県歯科医師会、県薬剤師会、県医薬品卸協同組合、県製薬協会、県医薬品登録販売者協会、県医薬品配置協議会、県保護司会連合会、県子ども会育成連絡協議会、ライオンズクラブ国際協会３３４－Ｅ地区、国際ロータリー第２６００地区、県ホテル旅館生活衛生同業組合、県美容業生活衛生同業組合、県クリーニング生活衛生同業組合、県理容生活衛生同業組合、県公衆浴場業生活衛生同業組合、日本ボーイスカウト長野県連盟、ガールスカウト長野県連盟	７８７人	①６・26ヤング街頭キャンペーン

県下21ヶ所において、ボーイスカウト・ガールスカウトの青少年や、薬物乱用防止指導員、ライオンズクラブ・ロータリークラブ会員、保護司、薬業関係者、行政機関職員等７８７人が、通行人約２６，４９０人に啓発用のチラシやポケットティッシュ等を配布して薬物乱用防止を訴えるとともに、国連支援募金への協力を呼びかけた。

②地域団体キャンペーン

病院・診療所・歯科診療所、薬局・薬店、理・美容所、クリーニング店、ホテル・旅館、公衆浴場、自動車教習所等約９，０００施設において、ポスターの掲示と一声運動を実施した。

また、薬局・薬店約１，１００店舗の店頭に募金箱を設置し、国連支援募金に協力した。

長野県

岐阜県

月日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月22日、23日	岐阜市、各務原市、瑞穂市、大垣市、池田町、関市、美濃加茂市、郡上市、多治見市、恵那市、高山市、下呂市　計12ヶ所	岐阜県、岐阜市、郡上市、保健所、各地区薬物乱用防止指導員協議会、名古屋税関、薬剤師会、登録販売者協会、医薬品配置協会、保護司会、ボーイスカウト、ガールスカウト、ライオンズクラブ、岐阜インランド・デポ協議会、日本通関業連合会・通関業会　等	３９４人	①６・26ヤング街頭キャンペーン ＪＲ岐阜駅前やショッピングセンターなど県下12ケ所にて、薬物乱用防止指導員をはじめとしたボランティアが、会場を訪れた方に啓発資材のキズ絆創膏やパンフレット等を配布し、「ダメ。ゼッタイ。」を合言葉に薬物乱用防止を訴えるとともに、ボーイスカウト、ガールスカウトらが国連支援募金への協力を呼びかけた。会場周辺には「ダメ。ゼッタイ。」普及運動のポスターやのぼりを掲げ、参加者はタスキや啓発用帽子を着用して積極的に活動した。 ＪＲ岐阜駅前会場では、「ダメ。ゼッタイ。」君や、「清流の国ぎふ」マスコットキャラクターのミナモ、税関イメージキャラクターのカスタム君の応援も得て若者へのＰＲに努めた。 また、地デジデータ放送やラジオ放送を通じて、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動及びキャンペーンの周知と、薬物乱用防止への理解と協力を呼びかけた。 ②地域団体キャンペーン 岐阜県薬物乱用対策推進本部を構成する各団体、県内各高等学校・大学等に対して、ポスターの掲示や募金箱の設置等の協力依頼を行った。 また、小学校、中学校、高等学校、大学等で開催している薬物乱用防止出前講座において、児童、生徒に対して薬物に関する正しい知識と薬物乱用の恐ろしさについて啓発を行った。

岐阜県

静岡県

月日	開催場所	活動主体	参加人員
①6月26日、②7月6日、③7月12日	①JR熱海駅（静岡県熱海市）、JR御殿場駅（静岡県御殿場市）、JR富士駅（静岡県富士市）、JR浜松駅（静岡県浜松市中区）、遠州森町パーキングエリア（新東名高速道路、静岡県周智郡森町）②ヤマハスタジアム（静岡県磐田市）③富士山山頂	静岡県、静岡県薬物乱用対策推進本部、静岡県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、静岡県薬物乱用防止指導員協議会、各市町、ボーイスカウト静岡県連盟、（一社）ガールスカウト静岡県連盟、ライオンズクラブ国際協会334－C地区、国際ロータリークラブ第2620地区、国際ソロプチミスト静岡、（一社）静岡県医師会、（一社）静岡県歯科医師会、（公社）静岡県薬剤師会、静岡県医薬品登録販売者協会、（公社）静岡県病院協会、静岡県配置医薬品協議会、静岡県医薬品卸業協会、静岡県製薬協会、静岡県理容生活衛生同業組合、静岡県美容業生活衛生同業組合、静岡県クリーニング生活衛生同業組合、静岡県ホテル旅館生活衛生同業組合、（一社）静岡県食品衛生協会、静岡県保護司会連合会、静岡県更生保護婦人会連盟、静岡県カラオケルーム防犯協会、日本塗料商業会静岡県支部	150名

活動状況

○6・26ヤングキャンペーン

・6月26日に県内のJR駅及び遠州森町パーキングエリアにおいて、薬物乱用防止指導員等の協力を得て、啓発用リーフレット、ポケットティッシュ等の資材を通行者に配布し、広く県民に薬物乱用防止を訴えた。

・7月6日、ヤマハスタジアムで開催されたJリーグサッカーの試合会場において、来場者に啓発用ウチワを配布するとともに、電光掲示板での動画の映像や場内周回啓発を行い、薬物乱用防止を訴えた。

・7月12日に富士山頂にて登山者へ横断幕を用いながら、薬物乱用防止を呼び掛けた。

○地域団体キャンペーン

各市町及び関係団体等の協力を得て、県内各所に啓発用ポスターを掲示するとともに、募金箱を設置して国連支援募金への呼びかけを行った。

また、県のラジオ番組を通じ、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動の広報を行った。

静岡県

愛知県

月日	開催場所	活動主体	参加人員
4月21日、5月25日、6月20・21・22・23・25・26・28・29・30日、7月1・2・5・6・7・9・13・15・16・23・28日、8月3・4・25日（実施見込み分を含む）	名古屋市、豊橋市、岡崎市、豊田市等　計41カ所	県、県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、15地区薬物乱用防止推進協議会（薬物乱用防止指導員、ライオンズクラブ、ボーイスカウト、ガールスカウト、保護司会、更生保護女性連盟、各市町村、警察等）	1，534人

活動状況

6月23日に名古屋市中区の栄広場や地下街において、ボーイスカウト、ガールスカウト、大学生等の54名が「ダメ。ゼッタイ。」君や県警の「コノハけいぶ」などのキャラクターの応援を得て啓発資材（うちわ）を配布し薬物乱用防止を呼びかけたことをはじめ、県内15地区の薬物乱用防止推進協議会がそれぞれヤングボランティアの協力を得て、買い物客などに薬物乱用防止を訴えるとともに、国連支援募金活動を実施した。

その他、Jリーグ名古屋グランパスエイト試合会場の瑞穂陸上競技場、大相撲名古屋場所開催の愛知県体育館、ナゴヤドーム、名古屋競馬場などにおいて啓発資材の配布、横断幕の設置、場内放送、電光掲示板標示等を行い、薬物乱用防止の周知を図った。

愛知県

三重県

月日	開催場所
6月20日、22日、25日、28日、7月1日、3日、5日、7日、14日、15日、18日	川島小学校、小山田小学校、桑名駅前、鈴鹿庁舎、JR亀山駅前、JR井田川駅前、JR下庄駅前、JR関駅前、JR加太駅前、亀山高等学校、徳風高等学校、マックスバリュ亀山店、マックスバリュみずほ台店、オークワ亀山店、亀山エコー店、総合保健福祉センター「あいあい」、鈴鹿ハンター、鈴鹿ハンター、イオンモール鈴鹿、アピタ鈴鹿店、イオンタウン鈴鹿、鈴鹿市役所、近鉄津新町駅前、東部中学校、宇治山田駅前、志摩市磯部町生涯学習センター、イオンタウン伊勢ララパーク、イオン名張店、アピタ伊賀上野店、JR尾

	活動主体	加員人	活動状況
鷲駅、熊野市駅、御浜町パーク七里御浜、紀宝町マル井マート、計38ヶ所	主催　三重県薬物乱用対策推進本部、三重県、四日市市、薬物クリーンみえ推進協議会	799人	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県内各地の主要駅、ショッピングセンターなどで薬物乱用防止指導員や薬物乱用防止指導啓発団体を中心に、三重県薬物乱用対策推進本部や薬物クリーンみえ推進協議会を構成する団体等が官民一体となって、街頭キャンペーンを行った。 ポスターの掲示、薬物標本やキャラバンカーを展示するとともに、内閣府特命担当大臣のメッセージを読み上げ、高校生や県民にリーフレット、ポケットティッシュ、うちわ等の啓発資材を配布しながら、薬物乱用防止を訴えた。 また、青少年がよく聞く時間帯に、FMラジオ放送による薬物乱用防止啓発のスポットCMを放送した。 他に、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動と併せて、街頭募金を行い、国連支援募金への協力を呼びかけた。 ②地域団体キャンペーン 三重県薬物乱用対策推進本部や薬物クリーンみえ推進協議会を構成する団体等の協力を得て、ポスターの掲示、啓発資材の配布や一声運動の実施、店頭での募金箱の設置等を依頼し、薬物乱用防止の働きかけを行った。

三重県

滋賀県

月日	開催場所	活動主体	加員人	活動状況
6月22日	長浜市（イオン長浜店）、竜王町（三井アウトレットパーク滋賀竜王）　計2ヶ所	ガールスカウト滋賀県連盟、日本ボーイスカウト滋賀連盟、長浜市長浜青少年少年センター、近江八幡・竜王少年センター、滋賀県青少年補導センター連絡協議会、滋賀県社会福祉協議会、滋賀県医師会、滋賀県歯科医師会、滋賀県薬剤師会、滋賀県薬業協会、滋賀県医薬品登録販売者協会、各地域ライオンズクラブ、滋賀県（医務薬務課・各保健所）、他	94人	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県内2ヶ所のキャンペーン会場において、キャンペーン実行委員会が中心となり街頭啓発を実施した。当日、会場には「ダメ。ゼッタイ。」君、滋賀県イメージキャラクターのキャッフィーも参加した。各会場で、通行人に啓発資材のリーフレット、うちわを配布した。また、2ヶ所の会場ではボーイスカウト、ガールスカウトによる国連支援募金活動も併せて実施した。 ②地域団体キャンペーン 「ダメ・ゼッタイ。」普及運動啓発期間には、地域団体キャンペーンとして、病院、診療所、歯科診療所、薬局、薬店、ライオンズクラブ会員の施設等、地域団体の協力を得てポスターの掲示と一声運動を実施し、併せて店頭等に募金箱を設置して国連支援募金活動に協力した。

滋賀県

京都府

月日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月22日	京都市内計4箇所（京都駅、四条河原町、三条河原町、四条高倉）	きょうと薬物乱用防止行動府民会議 ●主な参加団体 京都府、京都市、京都府警察本部、京都府教育委員会、京都市教育委員会、一般社団法人京都府薬剤師会、公益社団法人京都府医薬品登録販売者協会、公益社団法人京都府青少年育成協会、公益社団法人ガールスカウト日本連盟京都府支部、日本ボーイスカウト京都連盟、ライオンズクラブ国際協会335－C地区、京都府薬物乱用防止指導員協議会、京都府私立中学高等学校連合会	全体276名 （内訳）ガール、ボーイスカウト募金係（41名）、京都府内の大学生（76名）、府、市、府警等関係者（内数に含む）	・6・26ヤング街頭キャンペーン 京都駅及び京都市内繁華街計4ヶ所の街頭において、府・市・府警関係者をはじめ大学生、薬物乱用防止指導員、ボーイスカウト、ガールスカウト等が薬物乱用防止を訴えるとともに、国連支援募金への協力呼びかけを行った。 ・地域団体キャンペーン 1　各種関係団体の店頭等にポスターの掲示及び募金箱の設置を依頼し、キャンペーンの周知と国連支援募金への呼びかけを行った。

6.26　各地区の活動スナップ

北海道

青森県

岩手県

宮城県

秋田県

山形県

福島県

茨城県

栃木県

群馬県

埼玉県

千葉県

6.26　各地区の活動スナップ

東京都

神奈川県

新潟県

富山県

石川県

福井県

山梨県

長野県

岐阜県

静岡県

静岡県

愛知県

6.26　各地区の活動スナップ

三重県

滋賀県

京都府

大阪府

兵庫県

奈良県

和歌山県

鳥取県

島根県

岡山県

広島県

山口県

6.26　各地区の活動スナップ

徳島県

香川県

愛媛県

高知県

福岡県

佐賀県

長崎県

熊本県

大分県

宮崎県

鹿児島県

沖縄県

2　その他、京都府各地区の薬物乱用防止指導員、警察職員及び各保健所職員等が、駅前、市街地及び商店街等での啓発資材の配布や、小・中学校の児童・生徒を対象にした薬物乱用防止教室を実施。

3　「社会を明るくする運動」に薬物乱用防止指導員が多数参加し、府民に薬物乱用防止活動をアピールした。

（薬物乱用防止指導員　平成25年4月1日現在465人）

京都府

大阪府

月日	催開場所	活動主体
①6月23日②6月20日～7月19日	①南海難波駅前　②府内各地域計13ヶ所	①6・26国際麻薬乱用撲滅デー街頭キャンペーン　大阪府・大阪府「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会・大阪府薬物乱用防止指導員協議会

②地域団体キャンペーン　大阪府「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会構成メンバー（大阪府警察・市町村・薬物乱用防止指導員協議会その他協力団体・企業等）

参加人員

①6・26国際麻薬乱用撲滅デー街頭キャンペーン参加者　約1，500人　関係者22人

②地域団体キャンペーン参加者　約10，900人　関係者約360人

活動状況

①6・26国際麻薬乱用撲滅デー街頭キャンペーン

南海難波駅前において大学生による薬物乱用撲滅宣言を行うとともに、ボランティア（国際ソロプチミスト大阪－なにわ・大阪薬科大学学生・近畿大学学生）の協力のもと、啓発資材を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。

②地域団体キャンペーン

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動期間中、各関係機関・団体および市町村にポスターの掲示、募金箱の設置等を依頼し、薬物乱用防止の働きかけを行った。

また、府内各地では、街頭やイベント会場においてリーフレットその他啓発資材の配布を行い、薬物乱用防止を呼びかけた。

兵庫県

月日	催開場所
6月22日、23日、24日、29日、7月4日	神戸市、姫路市、尼崎市、明石市、西宮市、洲本市、芦屋市、豊岡市、赤穂市、宝塚市、高砂市、小野市、篠山市　計13か所

活動主体	参加人員
県、保健所設置市、県薬物乱用防止指導員協議会、各地区薬物乱用防止指導員協議会、兵庫県警察、ライオンズクラブ、ボーイスカウト、ガールスカウト等	637人

活動状況

県下12地区の薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、ボーイスカウト・ガールスカウト等のヤングボランティアや、ライオンズクラブ、税関、海上保安庁、警察署、大学生等の関係機関の協力を得て、県下13か所において街頭キャンペーンを実施した。

街頭キャンペーン実施に際し、地域の実情に応じて、人の多く集まる場所を選定した。例えば芦屋地区では、JR芦屋駅周辺において、ボーイスカウト、大学生の協力を得ながら、若者を中心に啓発を実施し、東播磨地区では、地元中学生が演奏する「ふれあいコンサート」と同時開催し、多くの人が集まる中啓発を実施した。また、中播磨地区では、地域の主要駅である姫路駅周辺で、若者が多く集まる「ゆかたまつり」での啓発活動を実施した。

その他の地区でも、駅前、ショッピングセンター等において、のぼり、横断幕の掲出、啓発パネルの展示、兵庫県のマスコット「はばタン」の着ぐるみ等により啓発効果を高めた。

活動参加者は、Tシャツ、タスキ等を着用し、「薬物乱用は『ダメ。ゼッタイ。』」を合言葉に、通行人等に対してリーフレット、ポケットティッシュ等の啓発資材を配付し、薬物乱用の恐ろしさを訴えるとともに、国連支援募金活動を行った。

兵庫県

大阪府

奈良県

月日	開催場所	活動主体	参加人員
6月22日	イオンモール大和郡山　計1ヶ所	奈良県、奈良県薬物乱用対策推進本部、奈良県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、奈良県警察本部、奈良県教育委員会、奈良県薬物乱用防止指導員（奈良県民生児童委員連合会、奈良県保護司会連合会、奈良県少年補導員協会連合会、ライオンズクラブ国際協会335―C地区8R・9R（1Z・2Z）、（一社）奈良県薬剤師会、（一社）奈良県医薬品登録販売者協会、奈良県製薬協同組合、奈良県家庭薬配置商業協同組合、奈良県医薬品小売商業組合、奈良県毒物劇物取扱者協会、奈良県家庭薬卸協同組合、奈良県医薬品卸協同組合、奈良県医薬品配置協議会、奈良県薬事団体連合会、奈良パイロットクラブ、国際ソロプチミスト奈良・奈良ーまほろば等	2，000人

活動状況

①6・26ヤング街頭キャンペーン

イオンモール大和郡山にて、森まさこ内閣府特命担当大臣のメッセージ代読、近野成美さんCMメッセージの紹介を行い、キャンペーンを開始した。その後、薬物乱用防止指導員・薬事関係団体の協力の下、イオンモール大和郡山に設けた計7箇所の啓発活動場所において、啓発物品（ティッシュ・キズバンテープ・リーフレット）を配布しながら、「薬物乱用撲滅にご協力下さい」と県民に訴えた。また薬物乱用防止キャラバンカーを設置し、県民に対して見学を呼びかけ薬物乱用の恐ろしさを理解していただいた。

②地域団体キャンペーン

特になし

奈良県

和歌山県

和歌山県

月日	開催場所	活動主体	参加人員
6月20～23日、29日、7月1日、4～6日、8日、9日、13日、19日	和歌山市、岩出市、紀の川市、橋本市、海南市、紀美野町、有田市、湯浅町、有田川町、御坊市、由良町、日高町、日高川町、印南町、田辺市、みなべ町、串本町、古座川町、太地町、新宮市、那智勝浦町　計44カ所	和歌山県薬物乱用対策推進本部、和歌山県薬物乱用防止指導員協議会、一般社団法人ガールスカウト和歌山県連盟、国際ソロプチミスト和歌山紀ノ川、和歌山中央ライオンズクラブ、和歌山くろしおライオンズクラブ、和歌山県立医科大学ラグビー部、和歌山県少林寺拳法連盟　等	のべ　1，716人

活動状況

①6・26ヤング街頭キャンペーン

県内9地区の薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、和歌山県立医科大学ラグビー部、ガールスカウト日本連盟和歌山県支部、和歌山県少林寺拳法連盟のヤングとともに和歌山県警察、和歌山海上保安部、田辺海上保安部、大阪税関和歌山支所、各少年センター、国際ソロプチミスト和歌山紀ノ川、県内ライオンズクラブなどの関係機関・団体の協力を得て、駅前やショッピングセンター前などで、のぼりや横断幕を掲げ、「薬物乱用は『ダメ。ゼッタイ。』」を合い言葉に、リーフレット、キズバンド、ティッシュ、うちわなどの啓発物品を配布するとともに、国連支援募金活動を実施した。

②地域団体キャンペーン

後援団体等の協力により、啓発ポスターを店頭に掲示するとともに、医薬品関係業者、生活衛生関係業者の店舗や職場において、国連支援募金活動を実施した。

また、学校において薬物乱用防止教室の開催及び、学校前において、啓発物品の配布をした。

鳥取県

月日	開催場所	活動主体	参加人員
7月6日（鳥取市、米子市）、7月7日（倉吉市）	鳥取市（イオン鳥取北店） 倉吉市（パープルタウン） 米子市（米子駅前広場及びイオン米子駅前店） 計3ヶ所	「ダメ。ゼッタイ。」普及運動鳥取県実行委員会、鳥取県、鳥取県薬物乱用防止指導員東・中・西部地区協議会、ヤングボランティア	160人

活動状況

鳥取県薬物乱用防止指導員地区協議会の会員、高校生のヤングボランティア等が中心となって、県内3地区で、ヤング街頭キャンペーンを実施し、地域住民に対し、リーフレットや絆創膏の啓発資材を配布するとともに、国連支援募金活動を行った。鳥取会場では、県警察本部所有の薬物乱用防止広報車「ストッピー号」の展示を行い、鳥取・倉吉会場では、県警察本部所有の着ぐるみを使用し、警察等関係機関と協力して啓発活動を展開し

た。倉吉会場では有志のグループがオカリナ演奏会を行って広く人を集めた。以上のことなどを通し、子供から高齢の方まで広く薬物乱用防止を呼びかけることができた。

また、後援団体へはもとより、各市町村及び県庁地方機関等にもポスター、募金箱等を送付し啓発に努めるとともに、国連支援募金への協力依頼を実施した。

そのほか、街中の電光掲示板等を用いて、広く薬物乱用防止の啓発に努めた。

鳥取県

島根県

月日	開催場所	活動主体	参加人員
6月22日、23日	松江市、雲南市、出雲市、大田市、浜田市、益田市、隠岐郡隠岐の島町　計7ヶ所	カブスカウト、ボーイスカウト、ガールスカウト、中学生、高校生、島根県薬剤師会、ライオンズクラブ、一般県民、浜田海上保安部、浜田税関支署、公益財団法人日本関税協会神戸支部浜田協議会、浜田地区保護司会、島根県警、保健所等県職員	309人

活動状況

①6・26ヤング街頭キャンペーン

県下7カ所において、カブスカウト、ボーイスカウト、ガールスカウト、中学生、高校生を中心に、ボランティア活動団体及び関係機関の協力を得て街頭キャンペーンを実施した。各参加者は、ショッピングセンター等の入口で「ダメ。ゼッタイ。国際協力で薬物乱用をなくしましょう。」を合言葉に、啓発資材の配布、街頭募金活動を実施した。

②地域団体キャンペーン

市町村、警察署等において、ポスターを掲示し、子供たちに薬物の危害について一声かけていただく「一声運動」の実施に協力いただいた他、国連支援募金の募金箱を設置した。

岡山県

月日	開催場所	活動主体	参加人員
6月18日、19日、20日、26日、27日、7月2日、4日	「覚醒剤等薬物乱用防止指導員地区協議会（県下9地区）」管内（岡山市、倉敷市、津山市、笠岡市、井原市、総社市、高梁市、新見市、備前市、真庭市、浅口市、和気町、勝央町において実施）	県、県警察本部、保健所、県覚醒剤等薬物乱用対策推進本部、県覚醒剤等薬物乱用防止指導員協議会（医師会、薬剤師会、保護司会連合会、少年警察協助員連合会、愛育委員会、理容生活衛生同業組合、食品衛生協会、ライオンズクラブ336－B地区）、同各地区協議会、県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、同各支部（後援等）県内の各税関支署、各海上保安部、各警察署等	約680人

活動状況

「覚醒剤等薬物乱用防止指導員地区協議会（県下9地区）」が中心となり、JR駅前、高等学校等県下18箇所において「ダメ。ゼッタイ。」を合言葉に薬物乱用防止啓発用資材（パンフレット、ポケットティッシュ、各地区作成啓発資材等）を配布するとともに、覚醒剤等薬物乱用防止を呼びかけ、併せて国連支援募金を実施した。

また、25年度も高校生・大学生等ボランティアの積極的な協力があった。

［参加学校］和気閑谷高等学校、備前緑陽高等学校、笠岡工業高等学校、鴨方高等学校、岡山龍谷高等学校、おかやま山陽高等学校、吉備国際大学、新見高等学校、共生高等学校、勝山高等学校、津山工業高等学校、津山商業高等学校、勝間田高等学校、林野高等学校

島根県

岡山県

広島県

月日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月22日、23日、29日、30日、7月7日、10日	県内9ヶ所（広島市、廿日市市、呉市、東広島市、三原市、福山市、三次市、北広島町、府中町）、MAZDAZOOM−ZOOMスタジアム広島（広島市）、エディオンスタジアム広島（広島市）	広島県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会	770人（内訳）ヤングボランティア（331人）、指導員（149人）、ライオンズクラブ会員（103人）、行政関係者（112人）、その他（75人）	①6・26ヤング街頭キャンペーン 薬物乱用防止の啓発物品を配布するとともに、募金活動を行った。 なお、広島市地区においては、広島市立基町高等学校吹奏楽部による演奏及び広島桜が丘高等学校のヤングボランティアによる啓発・募金活動を行った。 ②野球場及びサッカー競技場における広報 マツダズームズームスタジアム広島において電光掲示板による広報啓発を実施した。（6月21日〜7月17日までの4回放映） 7月10日に、エディオンスタジアム広島にて電光掲示板による広報啓発を行うとともに、啓発物品の配布を実施した。

山口県

月日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月11日、12日、13日、14日、15日、16日、22日、29日、7月6日、7日、20日	岩国市・柳井市・平生町・周南市・山口市・防府市・宇部市・山陽小野田市・長門市・萩市・下関市の10市1町（21か所）	高校生及びガールスカウト等のヤングボランティア・山口県薬物乱用防止推進員地区協議会等	633人（うちヤングボランティア245人）	①6・26ヤング街頭キャンペーン 啓発用たすきや帽子を着用したヤングボランティア及び山口県薬物乱用防止推進員地区協議会の会員等が中心となって、「ダメ。ゼッタイ。」薬物乱用を合い言葉に買物客や高校生等（約16，000人）に対し、薬物乱用防止のリーフレットや啓発資材（ティッシュ・絆創膏等）を配布した。 また、各地域でパネル、のぼり、アートバルーン等を活用したり、薬物乱用防止に関するクイズを実施し、子ども達にも薬物乱用の恐ろしさを広く訴えた。 なお、国連支援募金の呼びかけも併せて行い、薬物乱用防止に関する理解と協力を求めた。募金額は220，576円であった。 ②地域団体キャンペーン 各市町、各種関係機関・団体等の協力を得て、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動のポスターの掲示や募金箱の設置等国連支援募金活動を実施した。

広島県

山口県

徳島県

月日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月22日、23日、30日	藍住町、阿南市、吉野川市、美馬市、三好市、海陽町 合計6地区6カ所	県、県薬物乱用防止協議会（県下6地区協議会）、ヤングボランティア（ボーイスカウト、ガールスカウト、中学生、高校生）等	377名（内訳）薬物乱用防止指導員（122名）、ヤングボランティア（145名）、その他（110名）	○6・26ヤング街頭キャンペーン 県内6地区の薬物乱用防止地区協議会を活動主体として、薬物乱用防止指導員のほか、中学生、高校生をはじめとするヤングボランティア、各警察署、ライオンズクラブ等の関係機関・関係団体の協力を得て、県下6地区6カ所でヤング街頭キャンペーンを実施した。 人が集まる場所（量販店等）をキャンペーン会場として、薬物乱用防止を訴える横断幕、幟等を掲げ、「薬物乱用はダメ。ゼッタイ。国際協力で薬物乱用をなくしましょう。」を合い言葉に、来場者等に対して啓発用パンフレット、ポケットティッシュ、うちわ等の啓発資材を配布し、薬物乱用防止を訴えた。 また、全ての会場において、同時に「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金活動を行った。 ○地域団体キャンペーン 薬物乱用防止地区協議会及び薬物乱用防止指導員を活動主体として、県下各地の市町村役場、各事業所、店舗等の協力

を得て、ポスター等を掲示するとともに、来所者等に対して薬物乱用防止を訴える一声運動を実施した。

徳島県

香川県

香川県

月日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月26日、7月1日、4日、7日、5日、13日	高松中央商店街、高松市仏生山町、土庄町役場ピロティ、観音寺市・三豊市一円、JR高瀬駅前、観音寺市商店街　計6カ所	香川県、各保健所薬物乱用防止対策連絡協議会、香川県麻薬・覚せい剤・シンナー禍対策推進員、市町、警察署、保護観察所、税関支署、海上保安署、ライオンズクラブ、国際ソロプチミスト、少年育成センター、更生保護女性会、保護司会、薬剤師会、小学生、中学生、高校生、教員　等	約1，100人	県下4保健所の薬物乱用防止対策連絡協議会が中心となり、市町、警察署、ライオンズクラブ等の関係機関・民間団体の協力を得て、県内の主要な繁華街や駅前において、横断幕やのぼりを掲げ、啓発用Tシャツ、たすきを着用し、リーフレット、ポケットティシュ、うちわ等の啓発資材を配布しながら、薬物乱用の恐ろしさを訴えた。また、地元の小・中・高校生も多数参加し、啓発資材の配布や薬物乱用防止の宣誓など、積極的に啓発活動を行った。 街頭キャンペーンを実施するに当たり、地域の夏祭りなどのイベントと合同で実施したり、通勤・通学時間帯に駅前で実施するなど、効果的な活動になるよう努めた。

愛媛県

月日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月22日、7月1日、9日、11日、21日、23日	四国中央市、新居浜市、今治市、松山市、八幡浜市、宇和島市の計6ヶ所	愛媛県、愛媛県薬物乱用防止指導員協議会（愛媛県保護司会連合会、ライオンズクラブ、愛媛県薬剤師会、愛媛県薬業協会、愛媛県民生児童委員協議会、愛媛県少年警察ボランティア協会、愛媛県配置薬協会）愛媛県警察本部、愛媛県教育委員会等	955名	各地の商店街等において、「麻薬・覚せい剤・シンナーの乱用をなくそう」の横断幕を先頭に、県警本部の音楽隊等も参加する街頭パレードを実施した。 街頭パレードでは、リーフレット・ティッシュ等の啓発資材を配布して、薬物乱用防止を広く市民に呼びかけるとともに、国連支援のための街頭募金活動も併せて行い、これらの模様は、地元紙等のマスコミで紹介され、多大な啓発効果があった。 なお、松山市では高校生130名が一日薬物乱用防止指導員に委嘱されてパレード及び募金活動に参加、また、八幡浜市及び宇和島市ではボランティアの高校生（7名、17名）がパレードや募金活動に参加するなど、青少年の意識の高揚に重点を置いて実施した。

愛媛県

高知県

月日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月23日、26日、27日、29日、7月1日、4日	高知県、高知県薬物乱用防止推進連合協議会、東部・中央東・高知市・中央西・幡多の各地区薬物乱用防止推進協議会、ヤングボランティア（ボーイスカウト、ガールスカウト、子ども会連合会、小学生、中学生、高校生）、民生委員、保護司、関係行政機関職員	室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、芸西村、香南市、高知市、日高村、土佐清水市（計13市町村）	約580人	県下各地区の薬物乱用防止推進協議会が中心となり、ヤングボランティア等の

協力を得て、パレードを実施し、啓発資材の配布など行いながら広く県民へ薬物乱用防止を訴えた。併せて国連支援募金への呼びかけを行った。

高知市地区においては、商店街アーケード内で、「ダメ。ゼッタイ。」のロゴが入ったたすき・帽子・のぼり旗を活用し、中学生によるマーチングバンドの演奏に合わせ、パレードを行いながら、保健所職員やヤングボランティア等を中心に、若者から若者への啓発活動・募金活動を実施した。

他の地区においても、ブラスバンドによる演奏を交えながら、量販店等で街頭キャンペーン及び募金活動を実施するなど、薬物乱用防止への理解と募金への協力を呼びかけた。

また、今後も地域の夏祭りやイベント、「社会を明るくする運動」の日程に合わせて、地域や他団体と連携して順次街頭キャンペーン及び募金活動を行い、薬物乱用防止の啓発を行う予定。

その他、後援団体等に対してポスターの掲示依頼や募金箱設置依頼を行った。

高知県

福岡県

月日	開催場所	活動主体	加員参人
6月22日、23日、26日、27日、29日、7月2日、3日、13日、19日	北九州市、福岡市、大牟田市、久留米市、その他保健（福祉）環境事務所管内（筑紫、糸島、粕屋、宗像・遠賀、嘉穂・鞍手、田川、北筑後、南筑後、京築）　延べ21か所	県、県薬物乱用対策推進本部、ライオンズクラブ国際協会337―A地区、県麻薬協会、（公社）県医師会、（一社）県歯科医師会、（公社）県薬剤師会、（社）県医薬品登録販売者協会、県医薬品卸業協会、（公社）県医薬品配置協会、（公社）県製薬工業協会、県医療機器協会、県保護司会連合会、県更生保護女性連盟、県BBS連盟、日本ボーイスカウト県連盟、（一社）ガールスカウト県連盟、県シンナー等取扱業者連絡協議会等	1，303人

活動状況

「6・26ヤング街頭キャンペーン」では、県下延べ21か所において、ボーイスカウト・ガールスカウトを中心に各協力団体・関係機関のボランティアの参加を得て、のぼり・横断幕を掲げ、啓発資材の配布、国連支援募金等を実施した。会場によっては、ヤングボランティアの決意表明、麻薬探知犬のデモンストレーション、高校生チアリーディングのパフォーマンスなども実施した。

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動期間中、各市町村、関係団体等に対しては、啓発用ポスターの掲示や国連支援募金箱の設置などの協力を依頼した。ヤフオクドームでは福岡ソフトバンクホークス公式戦の開催時に、薬物乱用防止啓発メッセージを大型ビジョンで流した。レベルファイブスタジアムでは、アビスパ福岡のリーグ公式戦開催時に、啓発広告メッセージを大型ビジョンで流した他、場内アナウンス、球技場内への横断幕の掲出、啓発資材の配布などを行った。県の広報誌やラジオ番組を通じて、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動について広報を行った。

福岡県

佐賀県

月日	開催場所	活動主体	加員参人
7月8日、10日、11日	佐賀市、鳥栖市　計3ヶ所	佐賀県、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、薬剤師会、医薬品登録販売者協会、保護司会、少年補導員連絡協議会、地域婦人連絡協議会、高等学校、ライオンズクラブ、ロータリークラブ、BBS連盟、警察署　等	延べ256名（うちヤング119名）

活動状況

①ヤング街頭キャンペーン

7月6日に予定していた県内一斉キャンペーンは、豪雨のため中止となった。

7月8日、佐賀駅及び駅バスセンター周辺において、早朝と夕方の計2回、高校生に加え、関係機関、協力団体の参加を得て、リーフレットや標語入デオドランドシートなどの啓発資材を配布し、一声運動により通行人等に薬物乱用防止を訴えるとともに、国連支援募金活動を実施した。7月11日、昼休み時間中の大学構内で、学生ボランティア団体と高校生が大学生に対し啓発チラシ及び啓発資材を配布し、薬物乱用防止を訴えた。

7月10日に行われたJ1サガン鳥栖の試合時に、会場周辺で啓発資材の配布及び国連支援募金活動を実施した。試合前には競技場内に横断幕を掲示しグラウンド内で啓発パレードを実施するとともに、中学生と高校生が薬物乱用防止のメッセージを読み上げた。そのほか、地域で開催された祭りや高校野球佐賀地区大会等のイベントにおいて、啓発資材を配布し、

薬物乱用防止を訴えた。
②地域団体キャンペーン
各協力団体、市町、県警本部、県庁各機関等において、ポスターの掲示による啓発や募金箱の設置により国連支援募金活動を実施した。

佐賀県

長崎県

月日	開催場所	活動主体
6月22日、23日、29日、7月1日、10日、18日、19日、24日	長崎市、佐世保市、諫早市、島原市、五島市、対馬市、壱岐市、時津町、佐々町、新上五島町（計7市3町10か所）	長崎県、長崎県薬物乱用防止指導員協議会、長崎県警察本部、長崎県薬剤師会、長崎県医薬品登録販売者協会、長崎県医薬品配置協会、長崎県防犯協会、長崎県保護司会、ライオンズクラブ国際協会337―C地区、国際ソロプチミスト、日本ボーイスカウト長崎県連盟、長崎県PTA連合会、長崎BBS連盟、防犯推進クラブ、中学生、各市町　等

参加人員
594人

活動状況
①6・26「ダメ。ゼッタイ」ヤング街頭キャンペーン
薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、関係機関・民間団体等の協力を得て、県下10か所において実施した。
アーケード・大型店舗、また、Jリーグ公式戦スタジアム前等を会場に、啓発用のぼり、啓発パネル、県内中・高校生から応募があったポスターを展示した。
参加者は啓発用のタスキ・帽子を着用し、「薬物乱用はダメ。ゼッタイ。」を合言葉に、通行人、買物客等に対し、啓発資材（パンフレット・ポケットティッシュ・風船等）を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。
また、中学生・ボーイスカウト等を中心に国連支援募金への協力を呼びかけた。
警察署・交通安全協会・地域防犯クラブ等と協力し、国道沿いに、啓発用のぼりや横断幕を掲示し、キャンペーンを実施。
②地域団体キャンペーン
地域で開催される集会、会合等に参加し、啓発資材を配布した。
●青少年への啓発活動
7月6日から7月21日にかけて開催された第95回全国高等校野球選手権長崎県大会会場（長崎市、佐世保市）において関係機関の協力を得て、「ダメ。ゼッタイ。」の横断幕を掲示し、大会期間中の啓発活動を実施した。

長崎県

熊本県

熊本県

月日	開催場所	活動主体
6・26ヤング街頭キャンペーン（6月22日、6月29日）、地域団体等キャンペーン（6月20日～7月19日）	熊本市、荒尾市、山鹿市、阿蘇市、宇城市、八代市、水俣市、人吉市、天草市、菊池郡菊陽町、上益城郡嘉島町、球磨郡錦町の12市町、14会場	熊本県、熊本県薬物乱用対策推進本部、熊本県薬物乱用防止指導員連合協議会、ライオンズクラブ国際協会337―E地区、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動熊本県実行委員会、各市町村、熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、（公社）熊本県医師会、（一社）熊本県歯科医師会、（公社）熊本県薬剤師会、（社）熊本県医薬品登録販売者協会、（一社）熊本県医薬品配置協会、熊本県医薬品卸業協会、熊本県歯科用品商組合、熊本県医療品卸組合、熊本県製薬協会、日本薬局協励会、熊本県支部、熊本県PTA連合会、熊本県私立中学高等学校協会、熊本県保護司会連合会、熊本県防犯協会連合会、熊本県更生保護女性連盟、日本ボーイスカウト熊本県連盟、ガールスカウト熊本県連盟、（株）再春館製薬所、リバテープ製薬（株）、（一財）化学及血清療法研究所　等

参加人員
756人
（うちヤングボランティア377人）

活動状況
①6・26ヤング街頭キャンペーン

熊本市及び県下10保健所管内の地区薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、12市町にある大型商業施設等、14会場において、小・中・高校、ボーイスカウト及びガールスカウト等のヤングボランティア、薬物乱用防止指導員、県職員、県警職員、税関職員、教育委員会及び市町村職員が、薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」を合い言葉に街頭キャンペーンを実施し、啓発パンフレット、救急絆創膏等の啓発資材を配布するとともに国連支援募金への協力を呼びかけた。

②地域団体等キャンペーン

熊本県薬物乱用防止対策本部本部員、市町村、薬局・医薬品販売業者、病院、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動後援団体、県警本部及び各警察署、中学校、高等学校、大学・高専、地域振興局、教育事務所、自衛隊駐屯地等の各種団体・機関において、ポスターの掲示による啓発及び国連支援募金への協力依頼を行った。

大分県

月日	開催場所	活動主体	参加人員
6月29日（21日、22日、23日、26日、30日にも実施）	大分県内8地域 12カ所	大分県及び大分県警察本部	ボーイスカウト、ガールスカウト、高校生、大学生、薬物乱用防止指導員、ライオンズクラブ、薬業団体、その他のボランティア団体 計708人

活動状況

①6・26ヤング街頭キャンペーン

本キャンペーンは、県薬務室、各保健所等が県内8地域で、薬物乱用防止指導員、ボーイスカウト、ガールスカウト、ライオンズクラブ等のボランティア団体の協力を得て、盛大に行われた。

参加者は、「ダメ。ゼッタイ。」たすきを着用し、ボールペン、絆創膏、パンフレット等啓発資材を通行人に配布し、啓発を行った。

特に、大分・由布地区では、大分県警察本部と共催で実施し、会場ではのぼりや横断幕、ポスター掲示を行い、道行く人に対して街頭啓発を行った。

また、大分県警察音楽隊のミニコンサートや、大分県立中津北高等学校の薬物乱用防止をテーマにした書道パフォーマンスによりキャンペーンを盛り上げるとともに、大分市中心部を音楽隊の先導で横断幕を掲げ、パレードした。道行く人たちに「ダメ。ゼッタイ」君とともに啓発資材の配布や募金を呼びかけ、「薬物乱用防止」をアピールした。

②地域団体キャンペーン

参加を呼びかけた店舗の店頭に「ダメ。ゼッタイ。」ポスターの掲示と同募金箱を設置し、期間中交通量の多い大分市内の歩道橋2カ所に「ダメ。ゼッタイ。」普及運動横断幕を掲示し、啓発活動を行った。

大分県

宮崎県

宮崎県

月日	開催場所	活動主体	参加人員
6月22日	宮崎市	宮崎県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、宮崎県薬物乱用防止指導員協議会、ガールスカウト、ボーイスカウト、高校生、宮崎市、宮崎県警、宮崎県	計208名

活動状況

①6・26ヤング街頭キャンペーン

県庁前にて出発式を行い、高校生4名が内閣府特命担当大臣メッセージを代読した。

続いて、参加者全員が啓発用タスキを着用し、横断幕とのぼり旗を持ち「薬物乱用は、ダメ。ゼッタイ。」と呼びかけながら、県庁前から繁華街デパート前までの約1㎞をパレードした。

その後、繁華街デパート前を中心にパンフレット等の啓発資材の配布と国連支援募金活動を実施した。

②地域団体キャンペーン

関係団体等による国連支援募金活動の実施

鹿児島県

月日	開催場所	活動主体	参加人員
6月15日、26日、29日、7月6日、7日、13日、14日	鹿児島市、指宿・加世田・伊集院・川薩・大口・姶良・志布志・鹿屋・西之表・屋久島・名瀬及び徳之島保健所地区　計13地区	県、県薬物乱用対策推進地方本部、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動県実行委員会、各薬物乱用防止指導員地区協議会、ボーイスカウト、ガールスカウト、中・高校生、その他関係機関・団体	1，324人（うちヤングボランティア722人）

活動状況

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動月間中、県下、13地区の薬物乱用防止指導員地区協議会が中心となり、中・高校生等及び関係機関・団体の協力を得て、繁華街や大規模店舗等において、のぼり、横断幕を設置し、啓発用パンフレット等を通行人に配布して、薬物乱用防止を呼びかけるとともに、国連支援募金活動を実施した。

地域団体キャンペーンとしては、後援団体等の協力を得て、県内約1，000か所の各店舗・職域等に募金箱の設置やポスターの掲示を行うとともに、子供たちへの「一声運動」を展開した。

その他、6月15日に県医薬品配置協会主催による「第2回（通算21回）チャリティースポーツ大会」が開催され、グランドゴルフを通じて、参加者が国連支援募金を行った。

沖縄県

月日	開催場所	活動主体	参加人員
6月29日	那覇市、名護市、北谷町、豊見城市、宮古島市、石垣市　計6ヶ所	県、県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、薬物乱用防止協会支部、中学生、高校生、ガールスカウト、ボーイスカウト、その他関係機関・団体	379人

活動状況

県内6ヶ所において、ヤングボランティア及び薬物乱用防止指導員等を中心にパンフレット等啓発資材を通行人に配布する街頭キャンペーンを実施するとともに、国連支援街頭募金を実施した。

期間中、街頭キャンペーン以外に次のことを実施した。

①地域団体キャンペーン
②国連支援募金
③県の広報機関を利用した普及啓発（電光広報塔による広報、県広報誌への掲載）
④市町村への協力呼びかけ（国連支援募金及びポスター等の掲示）
⑤県内各関係機関への普及・啓発依頼

鹿児島県

沖縄県

ダメ。ゼッタイ。普及運動・国連支援募金

街頭キャンペーン・内閣府特命担当大臣・国連事務総長メッセージ

今日、薬物の乱用が深刻な社会問題となっています。

「一度だけ…。」という軽い気持ちで薬物に手を出すと、自分の意志では止めることができなくなります。心身の健康を害すだけでなく、家族や周りの人たちも不幸にします。幻覚や妄想から犯罪を犯すこともあります。薬物の乱用は、絶対に許されません。

特に最近は、合法ハーブ等と称して販売される薬物の乱用が社会問題になっています。中には、麻薬と同様の健康被害のおそれがあるものもあります。絶対に使用してはいけません。

政府としては、薬物の乱用防止対策を強力に進めてまいりますが、薬物の乱用から自分自身を守るには、どんな人から誘われても「ダメ。ゼッタイ。」と断る勇気が何よりも必要です。

皆様一人一人の力で、家庭、学校、そして地域で、「ダメ。ゼッタイ。」を合い言葉に、薬物乱用防止の輪を大きく広げていただきますよう、お願いいたします。

平成二十五年六月二十六日

内閣府特命担当大臣　森　まさこ

（薬物乱用対策推進会議議長）

◇　◆　◇

「国際薬物乱用・不正取引防止デー（6月26日）事務総長メッセージ」

国連事務総長　播基文

私は今年、イタリア北部にあるサン・パトリニャーノ薬物更生センターを訪問しました。ここでは28カ国の1，200人を超える若い男女が、中毒という呪縛を逃れ、尊厳ある生産的な生活を営む術を学んでいます。その道のりは平坦ではありません。中毒を克服するためには、勇気、懸命な努力、そして献身的な指導者の思いやりが必要です。しかし、この感動的なコミュニティのメンバーたちは、自分たちが幸運であることを理解しています。薬物は全世界で、若者や子ども、家族やコミュニティの健康を脅かし、薬物取引による数10億ドルにも及ぶ収益は、犯罪ネットワークの力を強め、恐怖と不安を作り出しているからです。

薬物の不正取引は開発にとって明らかな障害となります。この越境犯罪には、国内的、国際的に厳格かつ協調的な法執行で対処する必要があります。組織的犯罪と不正薬物取引への取り組みは共有の責任です。しかし、法の支配は取り組みの一環でしかありません。例えば、コカ、マリファナ、アヘンなどの栽培に依存する農家には、代替的な生計の手段を提供しなければならず、薬物使用者・中毒者には烙印を押すのではなく、支援の手を差し伸べる必要があります。

薬物中毒や、危険を伴う薬物注射によるＨＩＶ感染をはじめとする関連の影響を予防、治療する健全な基盤は、人権と科学に基づく公衆衛生アプローチしかありません。また、私たちは新たな脅威にも取り組まなければなりません。国際的な取締りの対象となっていないものも多い向精神薬の出現という問題も、その一つです。特に若者には、こうした薬物の危険性を認識してもらう必要があります。

今年の「国際薬物乱用・不法取引防止デー」にあたり、私は政府、メディア、そして市民社会に対し、不正薬物がもたらす害悪に対する認識を高めるとともに、その使用で利益を得る人々を出さないようにするため、できる限りの取り組みを行うよう呼びかけます。

平成24年中の薬物情勢について

（平成25年３月警察庁刑事局組織犯罪対策部薬物銃器対策課公表資料より抜粋）

平成24年中における薬物情勢の特徴としては、

1　覚醒剤事犯の検挙人員は対前年比ではやや減少したが、近年横ばいであり、全薬物事犯の86.0％を占め、依然として最重要課題である。また、暴力団構成員等の検挙人員がその過半数を占めるなど覚醒剤事犯への関与が強い状況が続いている。このほか、検挙人員においては、20歳代以下の若年層の減少傾向、40歳代以上の年齢層の増加傾向、再犯者の構成比率の上昇傾向は継続している。

2　大麻事犯の検挙人員は近年減少傾向にあるが、全薬物事犯の11.9％を占めており覚醒剤事犯に次ぎ高比率で推移している。また、20歳代以下の若年層の検挙人員は減少したものの依然として構成比率は高いほか、初犯者の高い構成比率も継続している。このほか、同年中の乾燥大麻、大麻樹脂の押収量は密輸入を中心に対前年比でそれぞれ大きく増加した。

3　覚醒剤密輸入事犯の検挙件数・人員とも対前年比では減少したが、密輸入押収量（粉末）は増加しており、航空機利用の携帯密輸、いわゆる「運び屋」による小口密輸入態様の高い割合、覚醒剤密輸入事犯の仕出国の多様化、様々な国籍の者が関与する状況が継続している。

4　「脱法ドラッグ」対策については、指定薬物に係る薬事法違反の検挙件数・人員とも対前年比で大きく増加したほか、様々な法令を駆使して検挙を推進した。

等が挙げられる。全体的には、供給側の薬物密輸・密売組織の暴力団や外国人及び需要側の末端乱用者検挙に一定の成果がみられた。その一方、最近の覚醒剤密輸入押収量の増加基調や末端価格の動向等から、国内における覚醒剤の安定した供給がうかがわれること、インターネット利用薬物密売事犯が横行していること等から国内における根強い薬物需要もうかがえる。このようなことから引き続き薬物の密輸・密売事犯等国内外の薬物犯罪組織の活発な動きが懸念されるため、多発する「運び屋」方式による薬物密輸入事犯の取締り、インターネット・レターパック・宅配便等を利用した薬物密売事犯及び薬物乱用者の検挙の徹底を図る必要がある。

また、「脱法ドラッグ」対策についても引き続き対策を徹底していく必要がある。

第１　薬物事犯の検挙状況

１　薬物事犯の検挙状況

全薬物事犯の検挙人員は13,466人であり、前年比では減少（－302人、－2.2％）した。また、暴力団構成員等の検挙人員も7,012人（－230人、－3.2％）と減少したが、依然として検挙人員の過半数を占めている。

〔薬物事犯別検挙件数及び検挙人員〕

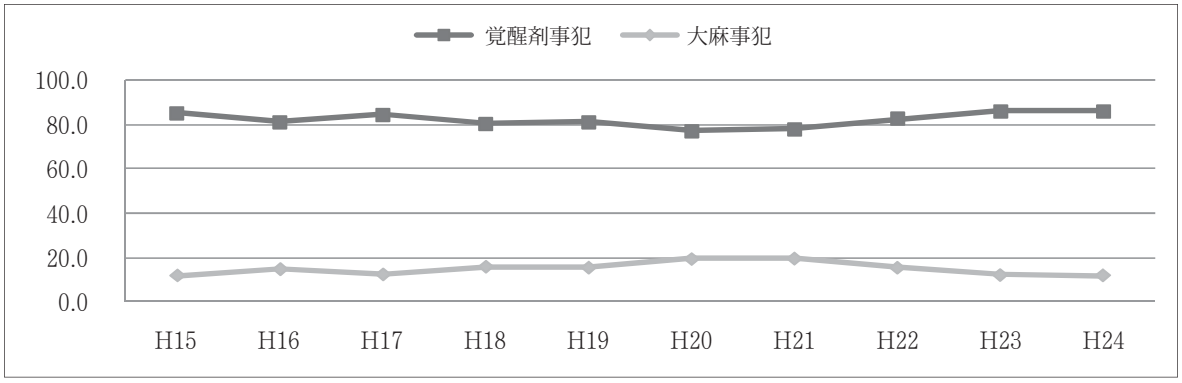
区分 ＼ 年別		平20	平21	平22	平23	平24
覚醒剤事犯	検挙件数	15,801	16,208	16,900	16,800	16,362
	検挙人員	11,025	11,655	11,993	11,852	11,577
	うち暴力団構成員等	5,801	6,201	6,322	6,553	6,373
	構成比率（％）	52.6	53.2	52.7	55.3	55.0
	うち外国人	663	710	710	710	617
	構成比率（％）	6.0	6.1	5.9	6.0	5.3
大麻事犯	検挙件数	3,829	3,903	3,011	2,287	2,220
	検挙人員	2,758	2,920	2,216	1,648	1,603
	うち暴力団構成員等	856	870	691	614	562
	構成比率（％）	31.0	29.8	31.2	37.3	35.1
	うち外国人	168	155	153	104	110
	構成比率（％）	6.1	5.3	6.9	6.3	6.9
麻薬及び向精神薬事犯	検挙件数	1,103	767	687	564	526
	うちMDMA等合成麻薬	628	272	214	191	162
	うちコカイン	261	223	214	177	148
	うちヘロイン	35	31	39	36	51
	うちその他	179	241	220	160	165
	検挙人員	491	344	299	256	280
	うち暴力団構成員等	119	99	46	75	77
	構成比率（％）	24.2	28.8	15.4	29.3	27.5
	うち外国人	117	74	82	61	56
	構成比率（％）	23.8	21.5	27.4	23.8	20.0
	うちMDMA等合成麻薬	281	107	61	77	81
	うち暴力団構成員等	84	28	10	28	27
	構成比率（％）	29.9	26.2	16.4	36.4	33.3
	うち外国人	46	16	7	8	10
	構成比率（％）	16.4	15.0	11.5	10.4	12.3

麻薬及び向精神薬事犯	うちコカイン	98	116	105	82	61
	うち暴力団構成員等	18	36	20	24	13
	構成比率（%）	18.4	31.0	19.0	29.3	21.3
	うち外国人	40	38	48	30	13
	構成比率（%）	40.8	32.8	45.7	36.6	21.3
	うちヘロイン	13	15	17	18	30
	うち暴力団構成員等	0	4	2	4	10
	構成比率（%）	0.0	26.7	11.8	22.2	33.3
	うち外国人	13	12	11	13	26
	構成比率（%）	100.0	80.0	64.7	72.2	86.7
	うちその他	99	106	116	79	108
	うち暴力団構成員等	17	31	14	19	27
	構成比率（%）	17.2	29.2	12.1	24.1	25.0
	うち外国人	18	8	16	10	7
	構成比率（%）	18.2	7.5	13.8	12.7	6.5
あへん事犯	検挙件数	19	34	26	16	8
	検挙人員	14	28	21	12	6
	うち暴力団構成員等	0	0	1	0	0
	構成比率（%）	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0
	うち外国人	3	7	2	2	1
	構成比率（%）	21.4	25.0	9.5	16.7	16.7
合計	検挙件数	20,752	20,912	20,624	19,667	19,116
	検挙人員	14,288	14,947	14,529	13,768	13,466
	うち暴力団構成員等	6,776	7,170	7,060	7,242	7,012
	構成比率（%）	47.4	48.0	48.6	52.6	52.1
	うち外国人	951	946	947	877	784
	構成比率（%）	6.7	6.3	6.5	6.4	5.8

注：本表の数値には、各薬物に係る麻薬特例法違反の検挙件数・人員の数値を含む。

覚醒剤事犯の検挙人員は全薬物事犯検挙人員の86.0%を占め、その割合は近年増加傾向にある。一方、大麻事犯の検挙人員は全薬物事犯検挙人員の11.9%と、その割合は平成21年をピークに近年は減少傾向にある。

〔薬物事犯別検挙人員割合の推移〕



（%）

	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
覚醒剤事犯	85.2	81.2	84.4	80.4	81.2	77.2	78.0	82.5	86.1	86.0
大麻事犯	11.8	14.7	12.3	15.8	15.4	19.3	19.5	15.3	12.0	11.9
その他	3.0	4.1	3.3	3.8	3.4	3.5	2.5	2.2	1.9	2.1

2　主な薬物事犯の傾向、特徴

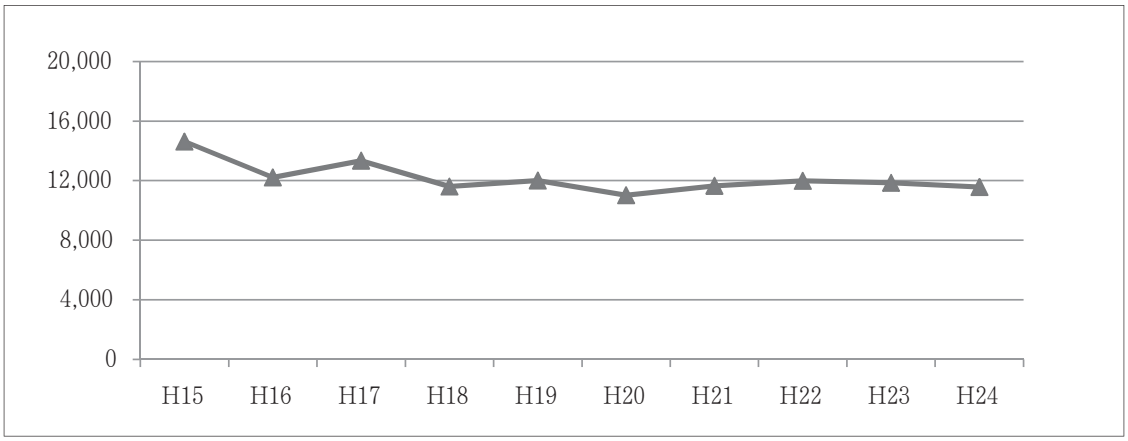
（1）覚醒剤事犯

平成24年中における覚醒剤事犯の検挙人員は11,577人であり、前年比ではやや減少（－275人、－2.3%）した。

覚醒剤事犯の検挙人員は、戦後の第３次覚醒剤乱用期のピークである平成９年以降長期的には減少し、ここ数年は、ほぼ横ばいで推移している。

また、平成24年中における覚醒剤事犯の検挙人員のうち、暴力団構成員等は近年増加傾向にあるが、6,373人（－180人、－2.7%）とやや減少、外国人も617人（－93人、－13.1%）と減少した。

〔覚醒剤事犯検挙人員の推移〕



	H９	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
覚醒剤事犯検挙人員	19,722	14,624	12,220	13,346	11,606	12,009	11,025	11,655	11,993	11,852	11,577
うち暴力団構成員等	7,817	6,050	5,430	6,853	6,076	6,359	5,801	6,201	6,322	6,553	6,373
暴力団構成員等の構成比率	39.6%	41.4%	44.4%	51.3%	52.4%	53.0%	52.6%	53.2%	52.7%	55.3%	55.0%

ア　年齢層別の検挙状況

年齢層別で見ると、長期的には、検挙人員及び人口10万人当たりの検挙人員ともに、20歳代以下の若年層は大幅な減少傾向、30歳代は減少傾向、40歳代以上は増加傾向で推移している。

平成24年中においても、前年比で少年は148人（－35人、－19.1%）、20歳代は1,933人（－255人、－11.7%）、30歳代は3,884人（－231人、－5.6%）とそれぞれ減少し、40歳代は3,533人（＋60人、＋1.7%）、50歳以上は2,079人（＋186人、＋9.8%）とそれぞれ増加した。

最も検挙人員が多い年齢層は30歳代、次いで40歳代であり、人口10万人当たりの検挙人員でも同様である。

〔覚醒剤事犯年齢別検挙人員〕

区分 ＼ 年別			平９	平20	平21	平22	平23	平24
覚醒剤事犯	検挙人員		19,722	11,025	11,655	11,993	11,852	11,577
	50歳以上		1,593	1,472	1,630	1,776	1,893	2,079
	人口10万人当たりの検挙人員		4.1	3.1	3.4	3.7	4.0	4.4
	構成比率（%）		8.1	13.4	14.0	14.8	16.0	18.0
	40～49歳		2,833	2,741	3,080	3,290	3,473	3,533
	人口10万人当たりの検挙人員		14.3	17.2	19.0	20.1	20.6	20.4
	構成比率（%）		14.4	24.9	26.4	27.4	29.3	30.5
	30～39歳		5,362	4,054	4,308	4,324	4,115	3,884
	人口10万人当たりの検挙人員		34.0	21.6	23.2	23.6	22.5	21.8
	構成比率（%）		27.2	36.8	37.0	36.1	34.7	33.5
	20～29歳		8,338	2,509	2,380	2,375	2,188	1,933
	人口10万人当たりの検挙人員		43.6	16.7	16.2	16.5	15.7	14.2
	構成比率（%）		42.3	22.8	20.4	19.8	18.5	16.7
	20歳未満		1,596	249	257	228	183	148
	人口10万人当たりの検挙人員		16.4	3.3	3.5	3.1	2.5	2.0
	構成比率（%）		8.1	2.3	2.2	1.9	1.5	1.3
		うち中学生	43	8	6	7	4	3
		うち高校生	219	34	25	30	25	22
	大学生		53	18	26	24	21	18

注１：算出に用いた人口は、各前年の総務省統計資料「10月１日現在人口推計」又は「国勢調査結果」による。
注２：20歳未満の人口10万人当たりの検挙人員は14歳から19歳までの人口を基に、50歳以上の人口10万人当たりの検挙人員は50歳から79歳までの人口を基にそれぞれ算出。

イ　初犯者の構成比率等

初犯者数及びその構成比率を見ると、減少傾向で推移しており、平成24年中においては、4,461人（前年比－353人、－7.3%）、38.5%（－2.1ポイント）であった。

〔覚醒剤事犯の初犯者数〕

区　分 ＼ 年　別				平９	平20	平21	平22	平23	平24
覚醒剤事犯	検挙人員			19,722	11,025	11,655	11,993	11,852	11,577
		うち初犯者数		10,503	4,837	4,890	4,879	4,814	4,461
		構成比率（%）		53.3	43.9	42.0	40.7	40.6	38.5
		年齢別	50歳以上	290	304	291	334	350	389
			40～49歳	794	807	935	916	1,029	1,060
			30～39歳	2,341	1,864	1,927	1,894	1,806	1,679
			20～29歳	5,624	1,651	1,528	1,536	1,468	1,207
			20歳未満	1,454	211	209	199	161	126

〔覚醒剤事犯の再犯者率〕

区　分 ＼ 年　別				平９	平20	平21	平22	平23	平24
覚醒剤事犯	検挙人員			19,722	11,025	11,655	11,993	11,852	11,577
		うち再犯者数		9,219	6,188	6,765	7,114	7,038	7,116
		構成比率（%）		46.7	56.1	58.0	59.3	59.4	61.5
		年齢別	50歳以上	81.8	79.3	82.1	81.2	81.5	81.3
		再犯者率	40～49歳	72.0	70.6	69.6	72.2	70.4	70.0
			30～39歳	56.3	54.0	55.3	56.2	56.1	56.8
			20～29歳	32.5	34.2	35.8	35.3	32.9	37.6
			20歳未満	8.9	15.3	18.7	12.7	12.0	14.9

ウ　覚醒剤事犯の主な特徴等

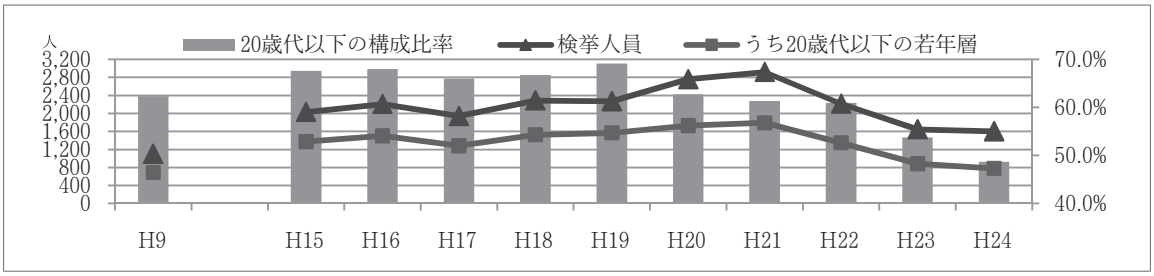
覚醒剤事犯の検挙人員は、全薬物事犯検挙人員の86.0%（前年比－0.1ポイント）を占めており、依然として我が国の薬物対策における最重要課題である。

また、その主な特徴としては、暴力団構成員等が55.0%を占めているほか、他の薬物事犯と比較して再犯者の構成比率が高いことや30歳代以上の検挙人員が多いこと等が挙げられる。

（2）大麻事犯

大麻事犯の検挙人員は、長期的に増加傾向にあったが、平成21年をピークに近年は減少傾向にあり、平成24年中における大麻事犯の検挙人員は1,603人（前年比－45人、－2.7%）であった。そのうち暴力団構成員等は562人（－52人、－8.5%）、外国人は110人（＋６人、＋5.8%）であった。

〔大麻事犯検挙人員の推移〕



	H９	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
検挙人員	1,104	2,032	2,209	1,941	2,288	2,271	2,758	2,920	2,216	1,648	1,603
うち20歳代以下の若年層	688	1,374	1,502	1,281	1,527	1,570	1,730	1,791	1,350	886	781
20歳代以下10万人当たりの検挙人員	2.4	5.3	6.0	5.2	6.5	6.8	7.7	8.1	6.2	4.2	3.8
20歳代以下の構成比率	62.3%	67.6%	68.0%	66.0%	66.7%	69.1%	62.7%	61.3%	60.9%	53.8%	48.7%

注１：「20歳代以下10万人当たりの検挙人員」は各前年の総務省統計資料「10月１日現在人口推計」または「国勢調査結果」による14歳から29歳までの人口から算出。

ア　年齢層別の検挙状況

平成24年中においては、前年比で20歳代と20歳未満が減少したが、近年における傾向と同様、最も検挙人員が多い年齢層は20歳代（715人）、次いで30歳代（544人）であり、人口10万人当たりの検挙人員でも同様であった。

また、20歳代以下の若年層の検挙人員は、全体の48.7%（前年比－5.1ポイント）を占めており、覚醒剤事犯とは異なり、依然としてこれらの若年層が高い比率で推移している。

〔大麻事犯年齢別検挙人員〕

区　分 ＼ 年　別			平９	平20	平21	平22	平23	平24
大麻事犯	検挙人員		1,104	2,758	2,920	2,216	1,648	1,603
	50歳以上		38	82	87	87	67	71
	人口10万人当たりの検挙人員		0.1	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1
	構成比率（%）		3.4	3.0	3.0	3.9	4.1	4.4
	40～49歳		97	269	237	201	185	207
	人口10万人当たりの検挙人員		0.5	1.7	1.5	1.2	1.1	1.2
	構成比率（%）		8.8	9.8	8.1	9.1	11.2	12.9
	30～39歳		281	677	805	578	510	544
	人口10万人当たりの検挙人員		1.8	3.6	4.3	3.2	2.8	3.1
	構成比率（%）		25.5	24.5	27.6	26.1	30.9	33.9
	20～29歳		585	1,503	1,580	1,186	805	715
	人口10万人当たりの検挙人員		3.1	10.0	10.7	8.2	5.8	5.3
	構成比率（%）		53.0	54.5	54.1	53.5	48.8	44.6
	20歳未満		103	227	211	164	81	66
	人口10万人当たりの検挙人員		1.1	3.0	2.9	2.3	1.1	0.9
	構成比率（%）		9.3	8.2	7.2	7.4	4.9	4.1
		うち中学生	1	2	5	11	1	0
		うち高校生	27	48	34	18	14	18
	大学生		21	89	81	49	23	23

注１：算出に用いた人口は、各前年の総務省統計資料「10月１日現在人口推計」又は「国勢調査結果」による。
注２：20歳未満の人口10万人当たりの検挙人員は14歳から19歳までの人口を基に、50歳以上の人口10万人当たりの検挙人員は50歳から79歳までの人口を基にそれぞれ算出。

イ　初犯者の構成比率

初犯者及びその構成比率は、近年減少、低下傾向にあるものの覚醒剤事犯と異なり、高比率で推移し、平成24年中においても1,292人（前年比－31人、－2.3%）、80.6%（＋0.3ポイント）と、依然として高水準である。

〔大麻事犯の初犯者数〕

区　分 ＼ 年　別			平９	平20	平21	平22	平23	平24
大麻事犯	検挙人員		1,104	2,758	2,920	2,216	1,648	1,603
	うち初犯者数		940	2,359	2,475	1,803	1,323	1,292
	構成比率（%）		85.1	85.5	84.8	81.4	80.3	80.6
	年齢別	50歳以上	25	52	55	57	42	44
		40～49歳	74	196	185	129	137	147
		30～39歳	223	569	660	474	397	431
		20～29歳	518	1,331	1,390	996	673	608
		20歳未満	100	211	185	147	74	62

ウ　大麻事犯の主な特徴等

大麻事犯の検挙人員は、全薬物事犯検挙人員の11.9%（前年比－0.1ポイント）と、覚醒剤事犯に次ぐ比率を占めている。

その主な特徴としては、最近では再犯者や30歳代以上の年齢層の構成比率が上昇傾向にあるが、依然として、初犯者や20歳代以下の若年層の構成比率が高いことが挙げられる。

このほか、栽培事犯については、検挙件数が111件（－36件、－24.5%）と３年連続で減少した。

〔大麻栽培事犯検挙状況〕

区分 ＼ 年別	平20	平21	平22	平23	平24
検挙件数	274	312	172	147	111
検挙人員	207	243	143	113	114

３　薬物の押収状況

薬物別の押収量では、覚醒剤粉末は348.5kg（前年比＋9.7kg、＋2.9%）と増加し、６年連続（平成19年以降）300kg以上の押収が続いている。一方、大麻草は6,680本（＋1,357本、＋25.5%）、大麻樹脂は41.7kg（＋13.7kg）、乾燥大麻は301.8kg（＋167.1kg、＋124.1%）と、前年よりもそれぞれ増加した。

MDMA等合成麻薬は3,674錠（－22,614錠、－86.0%）、そのうちMDMAは3,551錠（－22,415錠、－86.3%）と前年よりも押収量が大きく減少し、統計を取り始めた平成16年以降最少となった。

〔薬物種類別押収量（kg）〕

種類＼年別		平20	平21	平22	平23	平24
覚醒剤		401.3	358.5	305.5	338.8	348.5
うち粉末		397.5	356.3	305.5	338.8	348.5
うち錠剤	（kg）	3.8	2.2	0.0	0.0	0.0
	（錠）	22,371	12,799	8	39	223
乾燥大麻		375.1	195.1	144.9	134.7	301.8
大麻樹脂		33.1	17.2	8.8	28.0	41.7
大麻草	（本）	3,907	10,419	5,696	5,323	6,680
	（kg）	203.8	108.7	24.6	39.2	33.8
合成麻薬		217,172	85,688	17,326	26,288	3,674
うちMDMA		202,886	36,467	15,653	25,966	3,551
コカイン		5.5	11.3	6.9	28.7	6.6
ヘロイン		1.0	1.2	0.3	3.5	0.1
あへん		6.6	3.2	3.7	7.6	0.2

注１：合成麻薬の単位は（錠）である。
注２：合成麻薬の押収量は、覚醒剤とMDMA等の混合錠剤を含む。
注３：錠剤型覚醒剤の押収量は、１錠を0.168gで計算している。
注４：大麻草の押収量（kg）は、本数で捉えられないものを表示している。

４　シンナー等有機溶剤事犯の検挙・補導状況

シンナー等有機溶剤の吸引等の検挙・補導人員は年々減少傾向にあり、平成24年中においては、451人（前年比－110人、－19.6%）と減少した。

このうち、少年の検挙・補導人員も年々減少し、平成24年中も74人（－28人、－27.5%）と減少した。

〔シンナー等有機溶剤事犯検挙・補導状況〕

区分＼年別	平20	平21	平22	平23	平24
検挙・補導件数	1,420	1,251	915	587	487
検挙・補導人員	1,428	1,215	871	561	451
うち少年	479	386	225	102	74
構成比率（%）	33.5	31.8	25.8	18.2	16.4
うち暴力団構成員等	144	178	148	116	83
構成比率（%）	10.1	14.7	17.0	20.7	18.4

第２　薬物常用者による犯罪及び薬物に起因する事故

１　薬物常用者による犯罪

薬物常用者（覚醒剤常用者、麻薬常用者、大麻常用者、その他の薬物常用者及び有機溶剤等乱用者をいい、中毒症状にあるか否かを問わない。以下同じ。）による刑法犯及び特別法犯の検挙人員を見ると、刑法犯は842人（前年比＋10人、＋1.2%）、特別法犯は4,139人（＋69人、＋1.7%）であった。

〔薬物常用者による刑法犯及び特別法犯検挙人員の推移〕

罪種等＼年別	平９	平20	平21	平22	平23	平24
刑法犯検挙人員	824	809	858	805	832	842
凶悪犯	60	68	72	59	64	54
殺人	6	17	10	17	13	13
強盗	31	39	57	35	42	32
放火	9	6	4	2	1	2
強姦	14	6	1	5	8	7
粗暴犯	147	146	184	174	185	197
暴行	11	23	28	33	34	32
傷害	85	80	99	84	102	119
脅迫	7	5	14	15	16	13
恐喝	44	38	43	42	33	33
凶器準備集合	0	0	0	0	0	0
窃盗犯	427	404	373	372	416	384
その他	190	191	229	200	167	207
特別法犯検挙人員	6,943	3,403	3,942	4,183	4,070	4,139
銃刀法	51	10	23	25	25	23
その他	6,892	3,393	3,919	4,158	4,045	4,116

薬物常用者のうち、殺人、強盗等の凶悪犯で検挙されたものは54人（－10人）、暴行、傷害等の粗暴犯で検挙されたものは197人（＋12人、前年比＋6.5％）であった。

2　薬物に起因する事故（乱用死、自殺及び自傷並びに交通事故）

薬物に起因する乱用死者数等は87人（前年比＋13人）であった。その内訳は、乱用死が15人（－９人）、自殺が14人（＋７人）、自傷が３人（－２人）、交通事故が55人（＋17人）であった。

〔薬物に起因する乱用死者数等の推移〕

区分＼年別	平20	平21	平22	平23	平24
合計	27	58	48	74	87
乱用死	11	17	12	24	15
自殺	4	5	4	7	14
自傷	3	7	1	5	3
交通事故	9	29	31	38	55

注１：交通事故とは、乱用者による自動車運転中の事故をいい、同乗者も乱用者である場合にはその人員を計上。

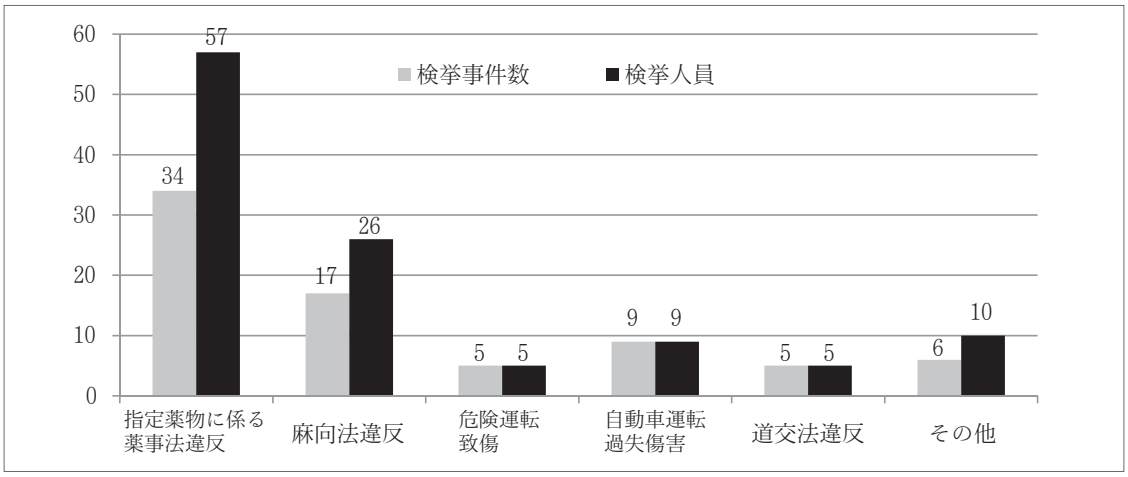
○「脱法ドラッグ」対策

「脱法ドラッグ」（※）のまん延は、国民の心身を著しくむしばみ、重大な脅威となっていることから、「脱法ドラッグ」の供給の遮断と需要の根絶のため、販売業者に対する指導・警告のほか、様々な法令を駆使して検挙を推進した。

（※）規制薬物（覚醒剤、大麻、麻薬、向精神薬、あへん及びけしがらをいう。以下同じ。）又は指定薬物（薬事法第２条第14項に規定する指定薬物をいう。以下同じ。）と同様の薬理作用を有する物品をいい、規制薬物及び指定薬物を含有しない物品であることを標榜しながら規制薬物又は指定薬物を含有する物品を含む。以下同じ。

1　適用法令別検挙状況

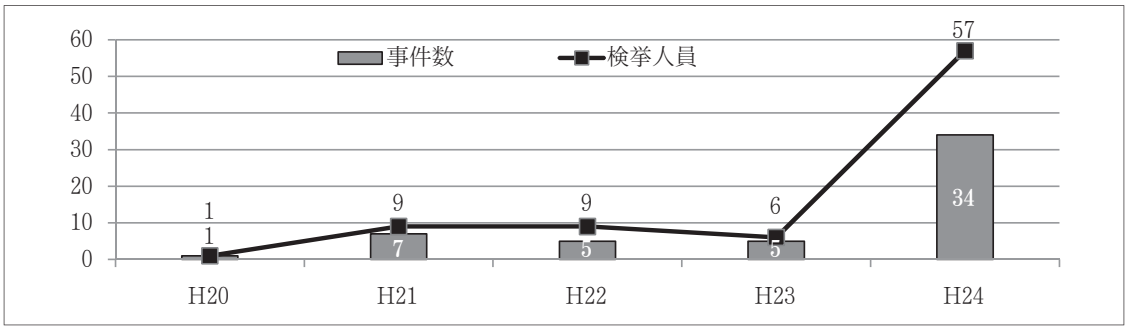
各種法令を適用して76事件、112人を検挙した。



（※１）同一被疑者で関連する余罪を検挙した場合でも、一つの事件として計上
（※２）複数の罪で検挙されている場合、主たる罪の検挙事件・人員として計上
（※３）指定薬物に係る薬事法違反は、「脱法ドラッグ」から指定薬物が検出された場合の検挙をいう。
（※４）麻向法（麻薬及び向精神薬取締法）違反は、「脱法ドラッグ」から麻薬が検出された場合の検挙をいう。
（※５）道交法（道路交通法）違反は、過労運転等の禁止による検挙をいう。

2　指定薬物に係る薬事法違反の年別推移

指定薬物に係る薬事法違反で34事件（前年比＋29事件）、57人（＋51人）を検挙した（件数は6.8倍、人員は9.5倍にそれぞれ増加）。



（※）同一の被疑者で関連する余罪を検挙した場合でも、一つの事件として計上

平成24年度事業のあらまし

公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センターでは、平成24年度も、関係省庁をはじめ全国関係機関、民間団体及び協力者の皆様のご指導・ご支援を頂きつつ、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動や国連支援募金運動をはじめキャラバンカーによる啓発活動、啓発資材の作成・配布並びに指導者養成事業等を積極的に推進いたしました。

平成24年度における事業の概要は次のとおりです。

これからも一層のご支援をお願いいたします。

㊟（厚）厚生労働省委託事業
（社）公益財団法人日工組社会安全財団

Ⅰ　公益目的事業

1　公益目的事業1（薬物乱用未然防止事業）

(1)　啓発普及事業

①　キャンペーン事業

ア　「ダメ。ゼッタイ。」普及事業

平成24年6月20日から7月19日までを期間とする「ダメ。ゼッタイ。」普及運動に厚生労働省、都道府県等とともに主催者として参画しました。本運動には、全国743箇所で約50，722人が参加して街頭キャンペーンが行われました。

イ　麻薬・覚せい剤乱用防止運動

平成24年10月1日から11月30日までの2ヶ月間、厚生労働省及び都道府県の主催で実施された「麻薬・覚醒剤乱用防止運動」を後援しました。

ウ　啓発資材の提供

啓発活動を進めるため、キャンペーンキャラクターとして、女優近野成美と1年間のキャラクター契約を行い、ポスターその他の啓発資材への肖像の活用、大会等行事への出演などにより活用を行いました。

キャンペーンキャラクターを活用したポスターを「ダメ。ゼッタイ」普及運動用及び「麻薬・覚醒剤乱用防止運動」用に作成し、都道府県等の地域活動団体に提供しました。

また、街頭活動における配布用にキャンペーンキャラクターを活用したキズ絆創膏（約35万個）を作成し、都道府県等の地域活動団体に提供しました。（社）

②　薬物乱用防止キャラバンカーによる啓発事業

薬物乱用防止啓発キャラバンカー（平成24年4月から8月まで8台、9月以降は5台）を北海道及び沖縄県を除く都府県を対象に派遣し、主として小学校及び中学校における薬物乱用防止教育を支援し、啓発活動を行いました。

派遣先は小学校884、中学校179、高等学校・大学等41、公的機関70、地域イベント等26の合計1，200箇所で、124，132人が参加しました。

キャラバンカー派遣について利用者アンケートを実施し、概ね良好な評価を得ました。

キャラバンカーの受付方法について、平成24年9月から従来の電話による先着順決定方式を財団HPからの申し込みによる一括決定方式に変更改善しました。（厚）

③　薬物乱用防止地域対話集会事業

都道府県薬物乱用防止指導員協議会と共催して全国2か所で地域対話集会を実施しました。（厚）

開催地等

・　平成24年12月2日
（広島県広島市）

・　平成25年2月20日
（鹿児島県鹿児島市）

参加者合計　277人

④　広報誌発行事業

ニュースレター第87号（平成24年8月）及び第88号（平成25年2月）を発行し、関係団体等に配布しました。

(2)　指導者養成事業

①　薬物乱用防止中堅指導員養成事業

都道府県知事が委嘱した薬物乱用防止指導員の資質向上のため、開催する研修会で、平成24年10月25日及び26日の2日間、東京都港区石垣記念ホールにおいて実施しました。薬物乱用防止指導員の他、都道府県職員、財団が委嘱しているキャラバンカー指導員等138人が参加しました。（厚）

②　薬物乱用防止教育認定講師養成講習会事業

ライオンズクラブ国際協会と共催で学校での薬物乱用防止教育の外部講師として活動する薬物乱用防止教育認定講師を養成する講習会を42回開催しました。受講者総数は4，118名。

(3)　国際協力事業

①　国連支援募金事業

平成24年6月20日から7月19日までの間、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動と連携して街頭募金等の集中的募金活動を実施したほか、年間を通じて募金活動を行いました。

集中的募金活動については、政府の薬物対策推進会議、関係各省庁の後援及び国連その他46団体の協賛を得て都道府県の実行委員会及び中学生、高校生等のボランティアの協力を得て実施しました。

募金活動のため、募金箱（42，350個）及びキズ絆創膏（約35万個）を作成し、都道府県実行委員会に配布しました。

募金額（平成23年12月16日～平成24年12月15日）は、41，462，922円でした。

国連支援募金適正化委員会を平成25年2月27日に開催し、国連に対する寄付金額等を決定し、併せて、平成24年6月から8月にかけて実施した都道府県実行委員会の意識調査の結果等を基に本事業の見直しを行い、民間国連ヤング大使派遣事業の廃止及び実施要綱の改正を決定しました。ただし、募金事業の周知を図る方策については引き続き検討することとされました。

2　公益目的事業2（医療用麻薬適正使用推進事業）

厚生労働省、公益財団法人日本薬剤師研修センター、都道府県等の共催により、全国12か所で「がん疼痛緩和と医療用麻薬の適正使用推進のための講習会」を開催し、全体で1，887人の参加がありました。

なお、医師のみを対象とした講習会を埼玉及び千葉で開催しました。

Ⅱ　収益事業

1　啓発資材有償頒布事業

ポスター、パンフレット、DVD、書籍などの啓発活動、啓発指導者研修などの資材の有償頒布を実施しました。

Ⅲ　法人の運営

1　理事会及び評議員会の開催

財団の運営事項を審議する理事会（平成24年6月19日及び平成25年3月8日）及び評議員会（平成24年6月19日及び平成25年3月28日）並びに公益財団移行に伴う運営事項を審議する臨時理事会（平成24年4月11日）及び評議員会（平成24年4月13日）を開催いたしました。

センターだより

Ⅰ　現在の役員及び評議員等について

現在の財団役員、評議員は次のとおりです。

1　役員

（理事長）

井村伸正（北里大学名誉教授）

（理事）

阿部俊三（（公財）麻薬・覚せい剤乱用防止センター）

大屋喜重（元東京都薬務部長）

清水健一郎（日本製薬団体連合会常務理事）

鈴木正二（ライオンズクラブ国際協会333―B地区元ガバナー）

高橋千代美（（一社）偽造医薬品等情報センター専務理事）

福井　進（「心の健康クリニック津田沼」所長）

藤野　彰（日本学生協会（JNSA）基金理事長）

山田純一（（一社）八王子市薬剤師会副会長）

冨澤正夫（（公財）麻薬・覚せい剤乱用防止センター専務理事）

（監事）

海沼美智子（国際ロータリー世界本部　青少年奉仕支援グループ　アジア担当エリア・コーディネーター）

唐沢昌敬（唐沢公認会計士事務所所長）

2　評議員

（評議員会会長）

寺尾允男（（一財）医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団会長）

（評議員）

海老沢勝一（日本赤十字社常任理事）

児玉　孝（（公社）日本薬剤師会会長）

古川元晴（弁護士）

吉田大郎（中央青少年団体連絡協議会理事）

Ⅱ　理事会及び評議員会の開催について

次のとおり開催され各議案について異議なく了承されました。

1　理事会

【第3回理事会（通常）】

(1)　日時　平成25年3月8日（金）
　　10時30分～11時50分

(2)　場所　港区・三会堂ビル

(3)　報告事項
　　平成24年度の事業執行状況並びに代表理事及び業務執行理事の職務執行状況

(4)　議案
　ア　平成25年度事業計画案について
　イ　平成25年度収支予算案について
　ウ　平成25年度資金調達及び設備投資の見込を記載した書類について
　エ　臨時評議員会の招集について
　オ　理事候補者の推薦について
　カ　特別寄付金の受け入れについて

【第4回理事会（通常）】

(1)　日時　平成25年6月14日（金）
　　10時～10時30分

(2)　場所　港区・三会堂ビル

(3)　報告事項
　　平成25年4月から6月の代表理事及び業務執行理事の職務執行状況

(4)　議案
　ア　平成24年度事業報告について
　イ　平成24年度収支決算について
　ウ　平成25年度事業計画の変更について
　エ　平成25年度収支予算の補正について
　オ　平成25年度公益財団法人JKA補助事業の実施について
　カ　理事候補者の推薦について
　キ　定時評議員会の招集について

2　評議員会

【第3回評議員会（臨時）】

(1)　日時　平成25年3月28日（木）
　　10時～10時20分

(2)　場所　港区・三会堂ビル

(3)　報告事項
　　第3回理事会（通常）について

(4)　議案
　ア　平成25年度事業計画案について
　イ　平成25年度収支予算案について
　ウ　平成25年度資金調達及び設備投資の見込を記載した書類について
　エ　理事の選任について

【第4回評議員会（定時）】

(1)　日時　平成25年6月26日（水）
　　10時～11時20分

(2)　場所　港区・三会堂ビル

(3)　報告事項
　　第4回理事会（通常）について

(4)　議案
　ア　平成24年度事業報告について
　イ　平成24年度収支決算について
　ウ　平成25年度事業計画の変更について
　エ　平成25年度収支予算の補正について
　オ　平成25年度公益財団法人JKA補助事業の実施について
　カ　理事の選任について

Ⅲ　「ダメ。ゼッタイ。」普及運動・国連支援募金について

平成25年度の「ダメ。ゼッタイ。」普及運動・国連支援募金は、平成25年6月20日から同7月19日まで、全国的に実施されました。（実施状況については、本誌掲載）

ご寄付団体及び賛助会員

平成25年２月11日から平成25年８月12日までに、当センターにご寄附いただいた団体及びご入会いただいた賛助会員は次のとおりです。ご協力ありがとうございました。

［ご寄付団体・個人］

東京八王子陵東ライオンズクラブ様
（一財）東京都警察懇話会　様
田　辺　三　菱　製　薬　㈱　様
㈳長崎県医薬品登録販売協会　様
兵　庫　県　西　宮　警　察　署　様

［法人賛助会員］

㈱　　豊　　島　　様（継続）
㈱　イ　ン　タ　ラ　ッ　ク　様（継続）
㈱ノルコーポレーション　様（継続）

［個人賛助会員］

関根　寿樹　様（継続）
スライ冨士子様（継続）
栗田　勝治　様（継続）
澤田　　宏　様（継続）
松原　桃子　様（新規）
芳賀　　寛　様（新規）
平岩　宏司　様（継続）
三井　祥子　様（継続）
神田　久純　様（継続）
中嶋　敏次　様（継続）
エブラヒミィーマムード　様（新規）
矢野　雅博　様（継続）
熊野　敏子　様（継続）
山地　義夫　様（継続）
櫻井　博之　様（新規）

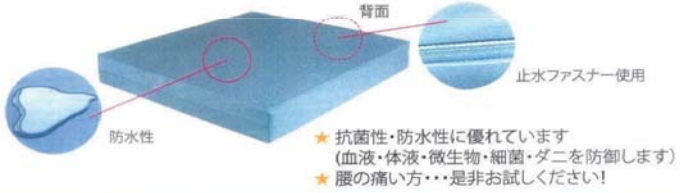
公益財団法人
麻薬・覚せい剤乱用防止センター
〒105-0001　東京都港区虎ノ門 2-7-9（第1岡名ビル2Ｆ）
TEL.03（3581）7436 ～ 7　FAX.03（3581）7438
ホームページアドレス　http://www.dapc.or.jp

さつきパルフィーノ・クッション

パルフィーノクッションのみ
定価￥15,750のところ ⇒ ￥7,875(税込)

パルフィーノクッションカバー
定価￥3,780のところ ⇒ ￥1,890(税込)

パルフィーノ車いす用クッション
サイズ:厚さ 55mm×幅 400mm×奥行 380mm
重量:約420g
パルフィーノ車いす用クッション専用カバー
サイズ:厚さ 55mm×幅 400mm×奥行 380mm
重量:約160g



より快適に より上質に

1枚2役(ソフト/ハード)の
リバーシブルタイプです。

配送料は全国送料一律600円となります。
2枚以上お買い上げのお客様は
送料無料サービス致します。
代金引換手数料は650円です。
3枚以上お買い上げのお客様は
代金引換手数料無料サービス致します。

さつきメディカル
〒193-0823 東京都八王子市横川町745
TEL:042-655-2375 FAX:042-655-2376

介護付有料老人ホームと在宅福祉のご案内です。

直下型地震にも対応
安心の免震構造
●シルバービレッジ日野東館

多摩モノレール
甲州街道駅徒歩1分!!
●シルバービレッジ日 野

在宅福祉部
●居宅介護支援事業所
シルバービレッジいちょうの里
●訪問介護事業所
シルバービレッジいちょうの杜
●セカンドライフ応援倶楽部
シルバービレッジいちょうの実

八王子市宮下町
●シルバービレッジ八王子西

「ゆったりと安心の毎日」をお届けしています。

シルバービレッジ

パンフレットのご請求は
0120-19-0432

ホームページ シルバービレッジ 検索

株式会社シルバービレッジ 代表取締役会長 石井 征二(八王子陵東LC)

啓発資材のご案内

当センターでは、次のような啓発資材を頒布しています。皆様のご利用をお待ちしています。

◆冊子・ポスター・リーフレット等

	品　　名	数　量	価格(税込)	備　　考
1	健康に生きよう	10冊	1,000	B5判　28頁　中学生向け
2	愛する自分を大切に	10冊	1,000	B5判　20頁　小学生用向け
3	薬物乱用防止マニュアルQ＆A	10冊	1,500	A5判　37頁　高校生用向け
4	薬物乱用防止教室推進の手引き	10冊	1,000	B6判　115頁 薬物乱用防止教室開催のハンドブック
5	機能と役割	1冊	500	B5判　95頁
6	これだけは知っておきたい薬物乱用の知識	1冊	500	A5判　145頁　指導者の手引書に有効
7	リーフレット	100部	1,100	A4サイズ（3つ折り） 団体名刷込は3,000部以上（刷込費用不要）
8	3D下敷	20枚	1,100	A4サイズ 団体名刷込は2,000枚以上（刷込費用不要）
9	啓発用キズバンソーコー	100個	1,500	Mサイズ（19×72)mm　2枚入り
10	薬物標本	1式	60,000	アタッシュケースに収納（45×34×10)cm
	新薬物標本	1式	28,350	アタッシュケースに収納（42.5×25×6)cm
11	啓発活動用パネル（10枚組）B1	1式	185,000	アルミ枠付（72.8×103)cm
	啓発活動用パネル（10枚組）B2	1式	157,500	アルミ枠付（51.5×72.8)cm

（送料：実費）

◆DVD　　価格(税込)　1枚 2,000円

番号	作　品　名	製作年月	上映時間	備　考
40	みんなで学ぼう！薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」(改訂版)	平成21年3月	15分	
41	薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」大麻（マリファナ）編	平成21年6月	17分	
42	薬物乱用はなぜ「ダメ。ゼッタイ。」か	平成22年6月	15分	
43	「ダメ。ゼッタイ。」薬物乱用は脳を破壊する！	平成23年6月	15分	
44	「ダメ。ゼッタイ。」薬物乱用は人をダメにする！	平成24年8月	15分	
45	薬物乱用はダメ。ゼッタイ。～脳を科学する～ (内容)「ダメ。ゼッタイ。」君、博士にプラスで「ダメくま君」が初登場。薬物乱用がなぜ「ダメ。ゼッタイ。」なのか、脳への弊害を科学します。また、最近猛威を奮っている脱法ドラッグ（違法ドラッグ）についても取り上げています。	平成25年6月	15分	

（送料：実費）

ご注文はホームページの購入申込書をプリントアウトしたものでＦＡＸにて承ります。

（公財）麻薬・覚せい剤乱用防止センター
電話. 03-3581-7436　　FAX. 03-3581-7438　　アドレス. http://www.dapc.or.jp